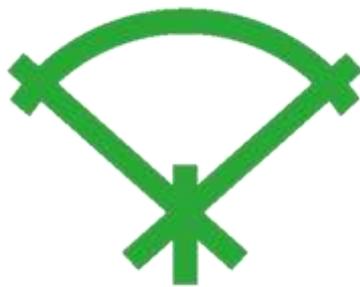


**教育に関する事務の点検及び評価報告書
(令和6年度実施分)**



泉佐野市教育委員会

は じ め に

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

この報告書は、これに従い、令和6年度に本市教育委員会が実施した事務事業についての点検及び評価を行い、その結果をまとめたものです。

令和6年度におきましては、学力向上の取り組みといたしまして、引き続き「学力支援コーディネーター」等の活用と「授業改善に資する学びの創造」講座の実施により教職員の指導力・授業力の向上を図るとともに、「泉佐野まなびんぐサポート事業」や「算数サポート補助教員事業」など、児童生徒への学習支援を行ってまいりました。

また、個別の課題によりきめ細かく対応できるよう、平成28年度から小学校3・4年生を対象に実施しました「35人以下の少人数学級」を小学校6年生まで拡充いたしました。

教育環境面では、災害時の飲料水を確保する避難所としての役割を果たすことができる浄水型プールの建設、小中学校図書室改修工事、中学校グラウンドへの夜間照明設置工事及びトイレ改修工事（洋式化）を施工し、食育の推進と児童生徒の健康づくりについては、安全で安心な給食の提供を行うとともに、物価高騰対策等として実施してきた無償化を今年度も継続し、児童・生徒からの応募献立の活用のほか、魅力のある美味しい給食を提供することにより、引き続き食品ロスの削減に努めるとともに、SDGsの観点から、有機農産物を使った給食の提供を開始いたしました。

また、小学校の学校給食センターにつきましては、施設・設備の老朽化に伴い建替えを進めてまいりましたが、食育指導の推進や質の高い安全・安心な給食の提供を目的に、自校方式及び親子方式により、給食調理室の建設に向けて着手し、令和6年度は、第二小学校、北中小学校及び末広小学校において実施設計・地質調査を、日根野小学校、長南小学校、中央小学校において基本設計を実施しました。

一方、社会教育の分野におきましては、市民一人ひとりが個性と能力を伸ばし、生きがいのある充実した生活を送ることができるよう、生涯学習、スポーツ、文化の振興や青少年の健全育成、歴史的資産の保存と活用を通じて、「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べるまちづくりを推進してまいりました。

今後も、今回の点検及び評価結果を事業の改善に役立てながら、より一層効果的な教育行政の推進を図ってまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和8年3月

泉佐野市教育委員会
教育長 奥 真弥

目 次

1	教育委員会の概要	1
2	評価項目・基準・結果表	4
3	点検及び評価の結果	6
(1)	観光に関すること	
	【歴史文化の保存活用】	6
①	歴史文化の保存活用	7
(2)	国際化に関すること	
	【国際化の推進】	19
①	国際交流の推進	20
(3)	子ども・子育てに関すること	
	【教育・保育の充実】	22
①	幼児教育の充実	23
②	留守家庭児童会の充実	25
(4)	学校教育に関すること	
	【義務教育の充実】	26
①	義務教育の充実	27
ア	学力の向上	27
イ	教育委員会の円滑な運営	30
ウ	義務教育施設等の整備	31
エ	学校教育事業	35
オ	小中一貫教育	43
カ	夜間中学	44
	【地域連携の充実】	46
②	地域教育協議会の充実	47
	【人権教育の充実】	48
③	人権教育の推進	49
④	人権教育の充実	51
	【学校給食の充実】	54
⑤	安心・安全な小学校給食の提供、食育の推進	55
⑥	安心・安全な中学校給食の提供、食育の推進	58
(5)	生涯学習・スポーツに関すること	
	【生涯学習の推進】	60
①	生涯学習の推進	61
ア	生涯学習の環境づくり	61
イ	生涯学習の推進	64
ウ	資料・情報提供の推進	68
	【生涯スポーツの振興】	81
②	生涯スポーツの振興	82

【地域の社会教育活動への支援】	85
③ 組織運営の拡充	86
【青少年の健全育成】	87
④ 青少年の健全育成	88
4 学識経験者の評価	91

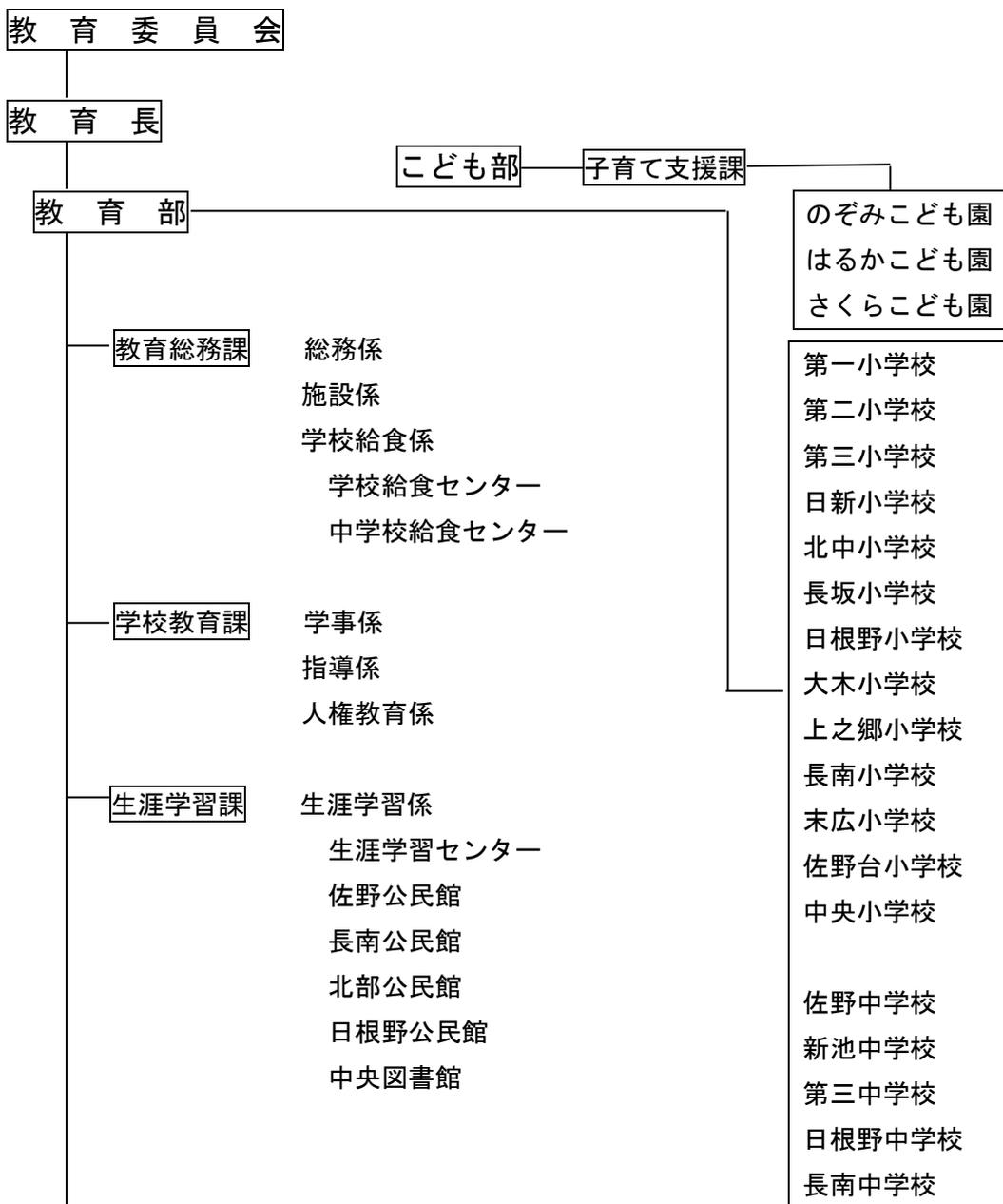
1 教育委員会の概要（令和6年度）

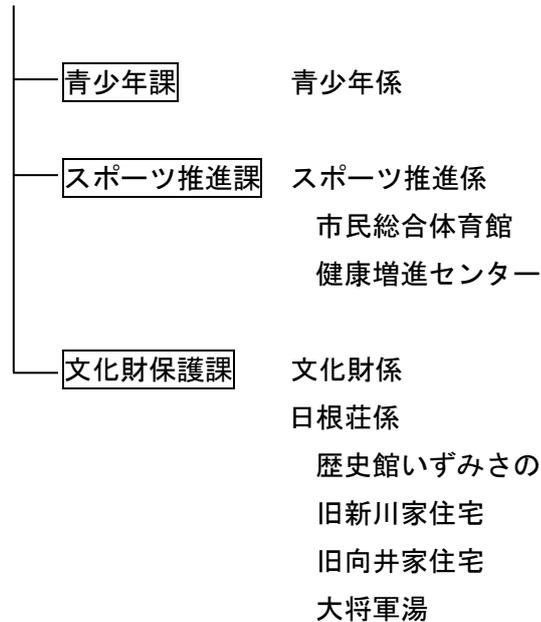
泉佐野市教育委員会事務局 所在地 泉佐野市市場東1-1-1
電話 072-463-1212
F a x 072-469-5267
Email k-soumu@city.izumisano.lg.jp

(1) 市の概要（2024.4.末現在）

人口（99,100人）世帯数（50,031戸）面積（約56.51km²）

(2) 教育委員会組織図（2024.4.1）





(3) 学校園基本統計 (2024. 5. 1)

	学校園数	学級数	園児・児童 ・生徒数	前年比 増減	教職員数
					合計
こども園	3	18	378 (47【1号認定児】)	16 (7【1号認定児】)	50
小学校	13	246	4,486	-99	418
中学校	5	96	2,201	+50	205

注) 1号認定児とは、子ども年齢が満3歳から5歳までの、保育に必要な事由(保護者の就労、妊娠、出産、疾病、障害など)に該当しない場合で、4時間程度の教育標準時間で通園するもの。

(4) 教育重点目標

○学校教育について

- ・児童・生徒に、学習の喜びと、あすへの希望を
- ・児童・生徒に、健やかな体と、豊かな心を
- ・教員に、教育者としての自覚と、高い指導力を
- ・教員と児童・生徒に、心のふれあいを
- ・学校に、正しい秩序と、健全な校風を

○社会教育について

- ・青少年に、豊かな情緒と、正しい人間性の醸成を
- ・市民に、生涯にわたって学ぶ意欲と、健康を
- ・地域活動を通じて連帯意識の高揚を

○文化・芸術について

- ・文化財の正しい理解と、保存・活用を
- ・住民の文化活動を盛り上げ、新しい文化の創造を

(5) 教育重点施策

- ・学校の管理運営に厳正を期する
- ・学校教育環境の整備充実に努める
- ・公教育担当者としての責務を遂行する
- ・適正な教育課程を編成し、有効な学習指導を行う
- ・道徳性を養い、人権教育の推進に努める
- ・障害教育の振興に努める
- ・生徒指導の充実を図る
- ・健康教育の充実と体力づくりの推進をする
- ・学校園内外の安全確保に努める
- ・こども園における教育・保育の充実を図る
- ・地域社会の中で子どもを育てる教育コミュニティーづくりを躍進させる

2 評価項目及び基準

(1) 評価項目

第5次泉佐野市総合計画の施策体系を参考にし、施策に基づく各事業を評価項目対象として、事務局で自己評価を行い、全体評価を第三者にお願いした。

政 策	部 門	施 策
活力・賑わい	(1)観光に関すること 【歴史文化の保存活用】	① 歴史文化の保存活用
	(2)国際化に関すること 【国際化の推進】	① 国際交流の推進
子育て・教育	(3)子ども・子育てに関すること 【教育・保育の充実】	① 幼児教育の充実 ② 留守家庭児童会の充実
	(4)学校教育に関すること 【義務教育の充実】	① 義務教育の充実 ア 学力の向上 イ 教育委員会の円滑な運営 ウ 義務教育施設等の整備 エ 学校教育事業 オ 小中一貫教育 カ 夜間中学
	【地域連携の充実】	② 地域教育協議会の充実
	【人権教育の充実】	③ 人権教育の推進 ④ 人権教育の充実
	【学校給食の充実】	⑤ 安心・安全な小学校給食の提供、食育の推進 ⑥ 安心・安全な中学校給食の提供、食育の推進
	(5)生涯学習・スポーツに関すること 【生涯学習の推進】	① 生涯学習の推進 ア 生涯学習の環境づくり イ 生涯学習の推進 ウ 資料・情報提供の推進
	【生涯スポーツの振興】	② 生涯スポーツの振興
	【地域の社会教育活動への支援】	③ 組織運営の拡充
【青少年の健全育成】	④ 青少年の健全育成	

(2) 評価基準

点検及び評価結果の基準については、以下のA、B、Cの3段階で行った。

A	(順調)	優れた取り組みや状況等が見られ、課題はほとんどなく、順調に目標が達成されたもの
B	(概ね順調)	良い取り組みや状況等が見られ、目標達成に若干の課題を含みつつも一方で一定の成果が見られるなどの点により、概ね目標が達成されたもの
C	(順調でない)	課題が多く、まだ改善に向けた取り組みに着手できていないか、着手してもほとんど成果が上がらないなど目標がほとんど達成できなかったもの

(3) 点検及び評価の結果

部門基準		(1)観光に関すること	(2)国際化に関すること	(3)子ども・子育てに関すること
A	(順調)	3	4	6
B	(概ね順調)	6	—	0
C	(順調でない)	0	—	0
合計		9	4	6
部門基準		(4)学校教育に関すること	(5)生涯学習・スポーツに関すること	合計
A	(順調)	27	7	47
B	(概ね順調)	11	11	28
C	(順調でない)	0	0	0
合計		38	18	75

3 点検及び評価の結果

【活力・賑わい】

(1) 観光に関すること

【歴史文化の保存活用】

①歴史文化の保存活用

目 標

史跡日根荘遺跡を含む指定文化財、埋蔵文化財等、地域の歴史と文化を物語る貴重な文化財を、すべての市民が親しみを持ち、誇りを持つことで、地域の活性化につながるよう保存と活用をめざす。(文化財保護課)

取組及び実績

○文化財保存事業 <評価> B

本市における文化財やその他の歴史資料の保存及び活用を図り、その重要事項の調査審議に関しては泉佐野市文化財保護審議会の指導のもと、保存事業の推進に努めた。

- ・指定文化財の所有者に対し、維持管理（一部）等への補助金交付
国指定文化財維持管理（4件） 令和6年度 事業費 213,000円
(令和5年度 事業費 177,000円)
- ・国補助及びその他の助成事業を受けて実施される民俗芸能の継承、文化財の普及啓発（展示）事業、情報発信

地域文化財総合活用推進事業（地域の伝統行事等のための伝承事業）

令和6年度 6件 事業費 7,285,000円
(令和5年度12件 事業費 16,614,900円)

地域文化財総合活用推進事業（地域文化遺産・地域計画等）

令和6年度 5件 事業費 4,802,532円
(令和5年度 7件 事業費 12,129,440円)

- ・文化財の普及に係る講師派遣等 令和6年度11件 (令和5年度 4件)
- ・歴史館いずみさの資料の収集 令和6年度11件 (令和5年度10件)
- ・歴史館いずみさの資料の整理 令和6年度 1件 (令和5年度 1件)
- ・第12回いずみさの検定

泉佐野市の市政・歴史・文化について広く知っていただくため、いずみさの検定を実施した。

いずみさの検定受験者数 令和6年度 296人 (令和5年度 121人)

- ・伝統文化親子教室 補助金申請事務及び実施団体指導 令和6年度 2件
(令和5年度 2件)
- ・資料提供等 令和6年度 6件 (令和5年度 4件)
- ・泉佐野市デジタルアーカイブ 令和6年度 1件 (令和5年度 1件)
- ・市民交流事業 令和6年度 2件 (令和5年度 1件)

○史跡等保存事業 <評価> A

史跡名勝天然記念物の保存活用等を図る。全国で4箇所しかない中世荘園遺跡であ

る国史跡日根荘遺跡指定地の適切な保存と管理をめざすとともに、日根荘遺跡の追加指定を進める。日根荘遺跡（長福寺跡）において暫定活用事業を実施し、史跡の活用を図った。また、国重要文化的景観日根荘大木の農村景観の保護と活用に努めた。

国の認定を受けた泉佐野市に関連する3つの日本遺産「日根荘」「北前船」「葛城修験」の活用・発信等を行った。

- ・ 史跡日根荘遺跡保存管理計画に基づく現状変更等行政指導
令和6年度19件（令和5年度16件）
- ・ 日根荘の文化的景観保護推進事業
 - 日根荘遺跡及び重要文化的景観の活用にかかる講師派遣・現地案内、小学校等の地域学習への協力・連携
令和6年度12回（令和5年度7回）
 - 日根荘遺跡の文化的景観保護に係るGISデータ作成
令和6年度1件（令和5年度1件）
 - 重要文化的景観日根荘大木の農村景観の保護に係る泉佐野市日根荘の里大木地区景観計画に基づく届出及び指導等
令和6年度22件（令和5年度9件）
- ・ 史跡日根荘遺跡（長福寺跡）暫定活用事業（野外展示・普及活動）
 - 大木小学校の学校田の農作業体験
令和6年度2回（令和5年度2回）
- ・ 全国史跡整備市町村協議会臨時大会陳情活動・文化庁協議等
令和6年度1回（令和5年度0回）
- ・ 大木まちづくり協議会
令和6年度4回（令和5年度6回）
 - 大木まちづくり協議会の大木コスモス園実施・花プランター設置に協力
日根荘大木の里コスモス園 開催期間 10月5日～20日（16日）
来場者数 令和6年度 4,954人
（令和5年度 6,107人）
- ・ 泉佐野市日根荘の里大木地区景観計画審議会
令和6年度0回（令和5年度0回）
- ・ 日本遺産「日根荘」推進事業
 - 協議会開催・イベント出展・シンポジウム・巡回パネル展等
令和6年度9回（令和5年度8回）
 - 日根荘を知る会等日本遺産ガイド養成講座等の実施
令和6年度10回（令和5年度10回）
 - 日根荘関係資料提供・展示・報道提供等
令和6年度17件（令和5年度7件）
 - 日根荘関係取材
令和6年度12件（令和5年度12件）
 - 日根荘関係講師派遣等
令和6年度14件（令和5年度5件）

・ 日本遺産「日根荘」補助金事業				
補助金事業	令和6年度	2件	(令和5年度	2件)
・ 日本遺産連盟関連事業				
協議会等	令和6年度	3件	(令和5年度	3件)
・ 日本遺産「北前船」推進事業				
協議会等	令和6年度	7回	(令和5年度	10回)
関西ブロック事業	令和6年度	4件	(令和5年度	3件)
補助金事業	令和6年度	2件	(令和5年度	2件)
資料提供等	令和6年度	6件	(令和5年度	4件)
・ 日本遺産「葛城修験」推進事業				
協議会等	令和6年度	5回	(令和5年度	5回)
その他関連事業	令和6年度	2件	(令和5年度	4件)
資料提供等	令和6年度	6件	(令和5年度	3件)
・ 歴史街道推進協議会関連事業				
協議会等	令和6年度	4回	(令和5年度	4回)
・ 世界かんがい施設遺産「井川用水」推進事業	世界かんがい施設遺産活性化協議会等			
	令和6年度	2回	(令和5年度	2回)

○発掘調査事業（泉州南埋蔵文化財行政広域連携事業） <評価> A

開発事業と文化財保護行政の円滑な調整により遺跡が守られ、かつ、開発事業も遅延なく推進できることをめざす。具体的には文化財保護法に基づく届出（通知）、または泉佐野市開発指導要綱等に基づく試掘依頼書のあった開発事業に対し、必要な場合、工事着手前に確認（試掘）調査を実施した。また、その調査の結果、遺跡の破壊が免れない場合、記録保存調査を実施し適切な保護にあたった。成果については随時整理を行い、普及事業など市民ニーズに対応して実施する。

・ 市内等遺跡の各種開発に伴う試掘・確認調査	令和6年度	30件	(令和5年度	21件)
・ 個人住宅建設等に伴う記録保存調査	令和6年度	2件	(令和5年度	1件)
・ 公共事業に伴う試掘・確認調査	令和6年度	4件	(令和5年度	0件)
・ 開発事業と遺跡の保存に係る窓口・電話対応業務	令和6年度	平均10件/日、2,430件/年	(令和5年度	平均10件/日、2,430件/年)
・ 埋蔵文化財の発掘届出・通知件数	令和6年度	371件	(令和5年度	355件)
・ 開発事業に係る協議	令和6年度	126件	(令和5年度	116件)
・ 市内遺跡等発掘調査による出土品整理等業務	令和6年度	4件	(令和5年度	6件)
・ 記録保存調査等に伴う調査報告書作成業務	令和6年度	1冊	(令和5年度	2冊)

- ・泉州南埋蔵文化財行政広域連携事業の委託…泉南市、阪南市、田尻町

○庁舎管理事業 <評価> B

- ・出土品や記録資料を適切に保管・収蔵するために、文化財保護課分室（S造2階、延べ床面積420㎡、平成9年竣工）の維持管理を行った。また、それらを定期的に公開し、市民への調査成果の還元を図った。出土品や記録資料の整理については進捗状況等も含め、ホームページ等を活用し情報発信を行っていく。
- ・文化財保護法に基づく発掘調査事業の記録資料の整理・出土品の収蔵量
総コンテナ数[累積] 令和6年度6,983箱（令和5年度6,979箱）
- ・発掘調査事業及び公共・民間各種開発事業に伴う資料の整理・復元業務
- ・出土品及び記録資料の貸し出しまたは見学業務
令和6年度 4件（令和5年度 0件）
- ・衣通姫ガイダンスセンターの管理運営において、地元団体に組織された衣通姫活用推進協議会の協力を得て管理業務を行った。
開館日数 令和6年度 259日（令和5年度 298日）
入館者数 令和6年度 1,628名（令和5年度 3,247名）

○文化財施設管理事業 <評価> B

- ・指定管理者制度による旧新川家住宅の管理・運営
開館日数 令和6年度 356日（令和5年度 360日）
入館者 令和6年度 7,218名（令和5年度 5,539名）
- ・市指定文化財旧向井家住宅の管理運営において、地元ボランティア団体泉佐野てらこやSANTERAの協力を得て、大阪体育大学と連携しながら泉佐野市に唯一残る江戸時代のかやぶき農家の公開及び管理業務を行った。
開館日数 令和6年度 219日（令和5年度 195日）
入館者 令和6年度 1,319名（令和5年度 1,492名）
- ・重要文化財奥家住宅の管理運営において、地元団体の奥家住宅保存会の協力を得て、管理業務を行った。
重要文化財奥家住宅の管理日 令和6年度104日（令和5年度104日）
- ・登録有形文化財大將軍湯の管理運営において、地元団体の大將軍湯保存会の協力を得て、管理業務を行っていたが、令和4年度より修理及び実施設計を行うため管理を中止している。
登録有形文化財大將軍湯の管理日 令和6年度 0日（令和5年度 0日）

○重要文化財保存整備事業 <評価> B

- ・重要文化財奥家住宅主屋屋根養生工事

- ・国登録有形文化財大將軍湯保存修復工事活用設計業務
令和6年度 2件（令和5年度 1件）

○史跡日根荘遺跡整備事業 <評価> B

- ・国史跡日根荘遺跡保存整備委員会 令和6年度0回（令和5年度0回）
- ・文化的景観保護推進事業 令和6年度1件（令和5年度2件）
林道復旧修理工事（令和4年度～令和9年度 6か年事業）
- ・文化的景観保護推進事業（間接補助事業）
禅徳寺階段補修工事 令和6年度1件（令和5年度1件）
- ・歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業 令和6年度0件（令和5年度0件）
- ・その他 令和6年度5件（令和5年度1件）
日根野駐車場用地整備工事・日根野駐車場用地整備（その2）工事
日根野駐車場用地整備に係る測量設計業務
日根野駐車場用地整備に係る地質調査業務
土丸城跡登山道改修設計業務・土丸児童児童公園改修工事実施設計業務

○歴史館管理運営事業 <評価> B

歴史館いずみさのの管理運営業務については、公益財団法人大阪府文化財センターに委託し、管理運営業務を行った。

常設展「中世荘園の人びと」の運営及び特別展等の開催。普及啓発事業の開催。展示室への入場料を無料とした平成25年度以降、有料時（平成24年度）と比較して、総利用者数が増加している。また、特別展等及びエントランスホールを活用した情報発信を行い、下記の内容による普及啓発事業を行った。

今年は特に大阪浮世絵美術館とのコラボで「葛飾北斎浮世絵 富嶽三十六景を愉しむ」は普段あまり見ることのない本物の版画の展示ということもあり、好評を博した。

開館日数	令和6年度	295日	（令和5年度	296日）
入館者数	令和6年度	13,847人	（令和5年度	8,162人）
総利用者数	令和5年度	14,342人	（令和5年度	8,658人）

展示・普及啓発事業の状況

（1）常設展について

タイトル	期間（日数）	観覧者数
常設展「中世荘園の人びと」	4月1日～3月31日 (295日)	13,847名

(2) 特別展等について

タイトル	期間(日数)	観覧者数
春季企画展「歴史発掘 大阪 2023 －発掘調査から歴史を探る－」	3月3日～5月6日 (令和6年：30日)	1,248名
夏季特別展「葛飾北斎 浮世絵「富 嶽三十六景」を愉しむ」	5月24日～6月9日 6月13日～6月30日 (29日)	5,571名
秋季企画展「教科書からたどる教 育の歴史－明治・大正・そして昭 和へ－」	9月21日～11月4日 (37日)	2,167名
冬季企画展「長滝庄－長滝地区と その周辺に眠る歴史文化－」	1月25日～3月23日 (48日)	1,545名
合 計	4回	10,531名

(令和5年度特別展等3回 4,993名)

(3) ホールについて

タイトル	期間(日数)	観覧者数
日根荘コーナー	4月1日～3月31日 (295日)	13,847名
図書閲覧コーナー		
ギャラリー展示「歴史館ワークショ ップ作品展2」	7月2日～1月24日 (167日)	5,065名
博物館実習生ミニ展示 「変遷する国語教科書」	9月21日～11月4日 (37日)	2,167名
ギャラリー展示「大阪国際郵便局限 定品」	1月25日～3月31日 (53日)	1,634名
合 計		22,713名

(4) 普及啓発事業について

展示関連講演会・展示解説

講演・講座・講習名	講演会・講座	展示解説	参加者数
春季特別展関連	2回	1回	95名
夏季特別展関連	2回	2回	214名
秋季企画展関連	6回	17回	166名
冬季特別展関連	5回	11回	233名
その他常設展示等 随時解説		10回	54名
計	15回	41回	762名

講演会・講座

講演・講座・講習名	回数	参加者数
館長講演会	2回	123名
歴史学講座	2回	66名
古文書講座	3回	84名
学芸員の出張講演・講座	2回	34名
計	9回	307名

講師派遣・各種団体との連携事業

講演・講座・講習名	回数	参加者数
体験学習 「れきし館ワークショップ」	27回	1,413名
小学校出前授業	11回	475名
小中学校見学対応	2回	201名
その他見学対応	3回	86名
計	43回	2,175名

(5) 博物館実習

令和6年度 1件 9月 3日(火)～ 9月 7日(土)
(令和5年度 1件)

○衣通姫ガイダンス施設整備事業 <評価> A

・衣通姫ガイダンスセンター駐車場整備にかかる用地買収 令和6年度1件

取組の効果

・文化財保存事業

文化財を適切に保護することで、文化財としての価値を維持し、地域の活性化やまちづくりに寄与し、市民の郷土や文化財への理解と関心を高めることができた。また、今後の文化財保存のため、歴史史料や建造物の文化財調査を行った。申請を行っていた朝日湯(元町)、加支多神社(鶴原)は登録有形文化財に登録された。

また、いずみさの検定を行うことで、庁内・一般に対して泉佐野市についてのPRにつながった。

泉佐野市の文化財等を後世へ末永く伝えていくために、全庁的な取組として、構築した泉佐野デジタルアーカイブを公開している。歴史のご縁が結ぶ地域活性化協定の締結市の秋田県にかほ市と同じA D E A Cのデジタルプラットホームで北前船の情報リンクを行った。

泉佐野市の外湯文化を知り、楽しむため泉州タオルで包まれた御湯印帳を持って、市内の温泉や銭湯等を巡る周知イベントを行った。

・ 史跡等保存事業

国史跡指定地の多くが日常的に生業・生活等の場として利用されており、文化財としての価値を維持しつつ適切な保存と管理を進めることができた。

平成25年10月に選定された重要文化的景観日根荘大木の農村景観についての保護推進や、日根荘大木の里コスモス園等の普及事業等とともに、地域の文化財や景観の保護について取り組みを進めることができた。

令和元年5月に日本遺産「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—」が認定されたことに伴い発足した、日本遺産日根荘推進協議会の事務局事務及び補助金申請事務等を行い、日根荘を知る会、全国中世荘園サミット in 泉佐野（葛城修験とタイアップして七宝瀧寺の地域と修験）、構成文化財周遊のためのガイダンス施設の整備工事、「衣通姫和歌コンクール」の開催等、人材育成・普及啓発、活用整備等について取り組みを進めることができた。また、日本遺産連盟の関西ブロック監事として、総会や日本遺産フェスティバル等に参加した。

令和2年6月に、複数の市町村にまたがってストーリーが展開するシリアル型の日本遺産である「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の認定を受けたことに伴い、北前船日本遺産推進協議会とは別に発足した、泉佐野北前船推進協議会の事務局事務等を行い、AR周遊アプリのための印刷を行い情報発信による周知についての取り組みを進めることができた。

国補助金を得て、佐野中学校のブロック塀に日本遺産「北前船」に認定されている全国52の自治体と連携し、各市町の構成文化財を、泉佐野市（大坂）から北海道まで北前船の航路を辿るように描き、日本遺産「北前船」普及のためのPRを行った。

新たな構成文化財として旧里井家邸宅（日根野の北庄司邸別邸）、里井家文書群を申請している。

同時に、同じくシリアル型の日本遺産である「葛城修験—里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」の認定を受け、葛城修験日本遺産活用推進協議会に参画し、副会長市として犬鳴山七宝瀧寺とともに普及啓発関連事業について取り組みを進めることができた。

また、令和4年度に国史跡「日根荘遺跡」、日本遺産「日根荘」の構成文化財である井川用水が世界かんがい施設遺産に登録されたが、大阪府を中心に府下の関係市町村と協議を行い、普及啓発に向けた情報を得ることができた。

市史編纂事業で収集した史料を日本遺産のPRで活用した。

・ 発掘調査事業

文化財保護法により事業実施は定められており、埋蔵文化財の価値を損なう開発事業

等に対して、遺跡の有無・範囲・内容を把握するために緊急的な発掘調査を実施し、遺跡の取り扱いに関して円滑な調整を図るとともに、適切な保存措置を講じることができた。また、発掘成果や遺物は、歴史館いずみさの等での展示に活用し、市民に広くその重要性について啓発することができた。

近年の埋蔵文化財については、近隣市町村の専門担当者の雇い止め、高齢化に伴い、担当者が1人のところが多く、大規模な開発に対応できないことから、埋蔵文化財の実績が豊富な本市が、泉南市・阪南市・田尻町と事務委託を締結し、予算比調整を行い、令和4年度より泉州南埋蔵文化財行政広域連携事業として開始している。結果、三市一町でこれまで獲得できてなかった市町も事業費の50%の国庫補助事業費で施行する効果も得られた。

・庁舎管理事業

発掘調査事業で得られた出土品や記録資料の保管・収蔵を適切に行い、報告書作成及び展示業務を進める上での基礎作業を行うことができた。また、受諾した市町の業務完了後は、それぞれに出土品を返還した。

また、市内に残る衣通姫伝説のPRのために、上之郷の中村児童公園内に茅渟宮跡と衣通姫の周知施設、衣通姫ガイドセンターを令和4年3月に開館し、管理運営においては地元で組織された衣通姫活用推進協議会の協力を得て、効果的な維持管理等を行うことができた。

・文化財施設管理事業

泉佐野市では民家住宅の文化財建造物が多く、その維持管理と活用が大きな課題となっている。旧新川家住宅、旧向井家住宅、奥家住宅において、指定管理者あるいは地元の保存会・町会と事業展開を図ることにより、適切で効果的な維持管理及び公開を行うことができた。

・重要文化財保存整備事業

重要文化財・府指定文化財の修理等に対する補助を実施し、文化財保存に向けた対策を進めることができた。

重要文化財奥家住宅の主屋屋根養生工事については、雨漏りが発生していた箇所屋根の養生工事を行った。

大將軍湯については、今後の保存修復に向けて、活用を促した保存活用修復工事活用設計業務を行った。

・史跡日根荘遺跡整備事業

日根荘大木の農村景観については、文化的景観保護推進事業として、重要な構成要素の修景工事を行った。また、間接補助事業として禅徳寺階段補修工事を行った。

日根野に史跡日根荘遺跡を巡る際に利用できる駐車場の整備行うことができた。また、史跡日根荘遺跡のひとつであり、日本遺産「日根荘」の構成文化財である土丸城跡に登るために、登山する前の拠点として土丸児童公園の改修工事実施設計、登山道の補修をするための改修設計を実施することができた。

・歴史館管理運営事業

令和3年度より、公益財団法人大阪府文化財センターが指定管理者として歴史館の管理運営を行っている。日根荘をテーマとした常設展示のほか、泉州地域の幅広い歴史・文化についての展示や、講座や講演会の開催、ホームページによる情報発信等により、年々高まりつつある市民の歴史・文化に関する学習ニーズに応えるとともに、新たな興味関心の掘り起こしに努めた。

また、日本遺産「日根荘」事業として、歴史館いずみさののエントランスホールを日本遺産ガイダンスセンターとして改修し、日根荘及び日本遺産にかかる情報発信機能の強化に努めている。

文化財保護課と指定管理者が協力して夏季特別展「葛飾北斎 浮世絵「富嶽三十六景を愉しむ」」を開催することができた。

市史編纂事業で収集した史料を特別展・企画展で定期的に活用した。

・衣通姫ガイダンス施設整備事業

ガイダンスセンター前に桜のある公園、駐車場、公衆トイレを整備する中村第2児童公園建設のための土地を購入した。

今後の課題

・文化財保存事業

文化財を保存・活用するためには、適切に保存管理することが基本であり、文化財の指定・登録・保存整備及び維持管理は今後も継続的に行う必要がある。併せて、文化財の保存には地域と市民の理解と協力が不可欠であり、積極的に文化財を公開するとともに、文化財のより一層の周知・広報に努め、普及啓発を推進する。また、未指定文化財の選定調査、指定化については、引き続き船岡山、樫井城跡、禅徳寺食野家関係資料群及び円満寺（大木）の仏像を市指定文化財とするための検討を行っている。

また、上大木を中心として世界農業遺産の申請に向けて、保全計画の作成のための準備を行う予定である。

・史跡等保存事業

国史跡日根荘遺跡の新たな追加指定地にかかる適切な保存と日常的な管理を所有者と共通の認識を育むために保存管理計画の策定に基づいて、公有化した長福寺跡をば

じめ、将来の史跡公園などへの整備をめざすことが必要である。

また、重要文化的景観日根荘大木の農村景観の保全に向け、景観計画と合わせて地域とともに文化財と景観の保護について継続的な啓発や普及事業を推進する。

3つの日本遺産及び世界かんがい施設遺産の市外への周知、また、民間と連携した取り組みに努める。

国史跡日根荘遺跡のひとつであり、日本遺産「日根荘」の構成文化財である土丸城跡へ登るための拠点整備、登山道整備を行う予定である。

・発掘調査事業

迅速かつ効率的に実施するために発掘調査基準等を踏まえた発掘調査の実施と窓口業務から保存までの事務手続き及び調査・協議体制の充実に努める。また、「埋蔵文化財の保護体制の整備充実について」（平成8年、文化庁）を受けて、今後は発掘調査事業への民間調査組織の導入も予想されることから、そのための監理・判断が可能な体制づくりが求められる。調査成果の即時公開や普及啓発にかかる業務を一層推進する。

引き続き、泉州南埋蔵文化財行政広域連携事業の開始に伴い、広域連携事業の充実と拡充、適切な人員配置と専門知識の習熟に努め、他市との連携を推進する。

・庁舎管理事業

出土品他収蔵資料のデータベース化を継続して行い、広く検索・貸出機能がスムーズに行えるよう推進する。そして、資料データのアーカイブ化に努める。

・文化財施設管理事業

旧新川家住宅、旧向井家住宅、奥家住宅、大將軍湯については、文化財の価値を維持するため、保存修理等の対策を推進する。

・重要文化財保存整備事業

指定文化財の保存に必要な整備等の事業を、所有者等と連携しつつ実施し、文化財保存に向けた対策を推進する。国登録文化財の大將軍湯の保存修復及び活用整備を先行して行い、その後に、重要文化財奥家住宅の保存活用計画を策定し、活用整備に向けた解体修理工事を行う予定である。

・史跡日根荘遺跡整備事業

史跡日根荘遺跡および日根荘大木の重要文化的景観の保存活用に必要な整備事業を、所有者・管理者等と連携しつつ実施し、将来的に史跡指定地の公有化及び整備計画の検討を行い、史跡環境の充実に向けた推進する。世界農業遺産の申請に向けてヤナブ地区休耕地の棚田の環境整備を行う予定である。また、樫井川流域の世界農業遺産の申請を

めざす。

- ・ 歴史館管理運営事業

未だ歴史館を利用されていない市民の利用を促進する必要がある。歴史館の所蔵資料のデータベースのうち、公開のための整理ができていないデータベースの整理作業及びアーカイブ化と公開を図る必要がある。寄贈・寄託資料の積極的な展示を開催する。

他博物館と連携し、遠くでしか見られなかった博物館の館蔵資料を市内で間近に見ることができる試みを行っていく予定である。

【活力・賑わい】

(2) 国際化に関すること

【国際化の推進】

①国際交流の推進

目 標

海外派遣・受入事業や文化・スポーツ交流事業を展開することにより、本市の未来を担う若い世代の国際感覚を養い、市民の国際意識の高揚に努める。(学校教育課)

取組及び実績

○ベトナム社会主義共和国ビンディン省との友好交流事業 <評価> A

令和元年10月に友好交流の覚書を締結したベトナム社会主義共和国ビンディン省へ市立中学校の生徒を派遣し、歴史遺産等の見学による歴史学習や地元中学生等との遊びや文化の紹介などの交流を通じて、友好の絆を深める。

派遣日程 令和6年7月31日(水)～8月3日(土) 4日間

派遣人数 市立中学1・2生 10名、

引率者(教員・教育委員・市職員) 5名

通訳1名

計16名

○青少年海外研修事業 <評価> A

青少年をオーストラリア連邦クィーンズランド州サンシャインコーストへ派遣し、英語研修や文化体験を実施するとともに、ホームステイや学校・高齢者施設訪問など現地の人々との交流を通して国際感覚を磨くことにより、本市の国際化を推進する人材育成に努める。

派遣日程 令和6年7月29日(月)～8月14日(水) 17日間

派遣人数 青少年 9名、引率者(教員・市職員) 2名

派遣日程 令和6年7月29日(月)～8月5日(月) 8日間

派遣人数 視察団(教育委員・市職員) 2名 合計13名

○英語教育推進校生徒派遣事業 <評価> A

英語に対する学習意欲を高めることを目的として、市立中学校3年生の生徒10名をオーストラリア連邦クィーンズランド州サンシャインコーストへ派遣する。現地では、英語レッスンやホームステイなどを行い、外国の言葉と文化に触れ、人々とふれあうなかで国際理解を深める。

派遣日程 令和6年7月29日(月)～8月5日(月) 8日間

派遣人数 市立中学3年生 10名、引率者(教員) 1名 合計11名

○マラソン交流事業<評価> A

生涯にわたりスポーツに親しむ人々が増えるなか、マラソン大会出場を中心に据えて、オーストラリア連邦クィーンズランド州のサンシャインコーストマラソンに市民ランナーを派遣し市民レベルでの国際交流を展開する。

派遣日程 令和6年8月7日(水)～8月12日(月) 6日間

派遣人数 市民ランナー 2名、職員ランナー 1名 合計3名

取組の効果

- ・児童・生徒が直接異文化に触れることにより、外国の言葉や暮らしに興味を持ち、自ら学ぼうとする意欲を向上するとともに、積極性を養うことができた。
- ・青少年が現地で語学研修に取り組むことや人々と触れあうことは、自らの将来を考える上で、より具体的な目標を形成するのに役立った。また、日本文化の紹介や泉佐野市についてのプレゼンテーションを現地で行うことで、青少年の郷土愛を育み、市のPR促進にも貢献した。
- ・社会人を対象とした海外派遣を展開することで、市民レベルでの交流が促進され、相互理解が一層進んだ。

今後の課題

- ・長年にわたり継続して実施してきた交流事業を一層発展させていく取組みが必要となる一方、新たな事業については今後の広がりを見据えた交流を展開していくことが望まれる。

【子育て・教育】

(3) 子ども・子育てに関すること

【教育・保育の充実】

①幼児教育の充実

目 標

人間形成の基礎となる心情・意欲・態度を育てるなど、心豊かな人間づくりのための教育を進める。（こども部子育て支援課・学校教育課・教育総務課）

取組及び実績

・幼児教育の振興充実（健康に留意し、園生活の中で人間形成の基礎となる心情・意欲・態度を育て、社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の形成に努めた。）

○こども園健康管理事業 <評価> A

園児の健康管理をした。

・尿検査実施人数 延べ 令和6年度 376人（令和5年度 359人）

○幼稚園利用助成事業 <評価> A

令和元年10月から幼児教育・保育無償化に伴い、私立幼稚園に対し、幼稚園利用助成事業補助を行った。

・幼稚園利用助成事業補助額 令和6年度 185件 52,260,883円
(令和5年度 266件 75,759,121円)

○こども園教育研究事業 <評価> A

・公立こども園教員の研修を行い、視野を広め、資質向上を図った。

・研修会実施回数 令和6年度 62回（令和5年度 64回）

○こども園通園バス事業 <評価> A

・公立こども園に在園する園児の送迎。

・バス運行台数 令和6年度4～8月4台・9～3月3台、利用者数 22人
(令和5年度 4台、利用者数 24人)

○こども園運営事業 <評価> A

こども園における消耗品・備品等については、配分予算により執行しており、園児数、クラス数などに応じて配分された予算の中から、各園が工夫し、計画的な整備を進める。（30年度より認定こども園となり全園児数の3、4、5歳児の割合約71%で計算）

・需用費（消耗品費・食糧費・印刷製本費・修繕料・医薬材料費）

令和6年度 45,382千円（令和5年度 43,758千円）

・備品購入費（教材等）

令和6年度 1,293千円（令和5年度 1,333千円）

取組の効果

・教職員の資質向上のため、工夫を凝らし教職員の研修を継続することができた。

- ・限られた予算の中で教材、消耗品、備品等教育環境の充実をさせることができた。

今後の課題

- ・地域に根ざした行事や取り組み等を質・量ともに充実させることに努める。
- ・社会状況に応じた認定こども園の教育環境整備と円滑な運営。

②留守家庭児童会の充実

目 標

保護者が就労等の理由により、昼間、家庭にいない児童たちに、平日の放課後や土曜日、長期休業日において、家庭に代わる生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者が安心して仕事と子育ての両立が出来るように支援すること。(学校教育課)

取組及び実績

○泉佐野市放課後児童健全育成事業 <評価> A

留守家庭児童会一覧(登録者数5/1現在)

第一小学校留守家庭児童会	令和6年度	94名	(令和5年度	77名)
第二小学校留守家庭児童会	令和6年度	193名	(令和5年度	158名)
第三小学校留守家庭児童会	令和6年度	33名	(令和5年度	20名)
日新小学校留守家庭児童会	令和6年度	169名	(令和5年度	147名)
北中小学校留守家庭児童会	令和6年度	78名	(令和5年度	77名)
長坂小学校留守家庭児童会	令和6年度	43名	(令和5年度	35名)
日根野小学校留守家庭児童会	令和6年度	286名	(令和5年度	249名)
大木小学校留守家庭児童会	令和6年度	10名	(令和5年度	9名)
上之郷小学校留守家庭児童会	令和6年度	59名	(令和5年度	70名)
長南小学校留守家庭児童会	令和6年度	69名	(令和5年度	76名)
末広小学校留守家庭児童会	令和6年度	75名	(令和5年度	64名)
佐野台小学校留守家庭児童会	令和6年度	53名	(令和5年度	71名)
中央小学校留守家庭児童会	令和6年度	157名	(令和5年度	152名)

開設日及び開設時間

月曜日から金曜日の放課後 授業終了後から午後7時まで(延長保育も含む)

土曜日及び長期休業日 午前8時30分から午後7時まで(延長保育も含む)

平成27年度～令和6年度は、株式会社セリオに業務委託により実施。

各留守家庭児童会で週2回、学習支援プログラムを実施。

取組の効果

- ・すべての小学校区で待機児童を出さずに、すべての登録者が利用できた。

今後の課題

- ・民間による大規模開発等による対象児童数の増加による待機児童数の発生が懸念される。

【子育て・教育】

(4) 学校教育に関すること

【義務教育の充実】

①義務教育の充実

ア 学力の向上

目 標

基礎、基本的な学習内容の確実な定着と、自ら学び、考える力など、「確かな学力」の育成を図るとともに、児童生徒や保護者・地域ニーズをふまえた、特色ある教育課程の編成、教育環境の充実を進める。（学校教育課・教育総務課）

取組及び実績

・教育内容の充実及び特色ある取り組みの展開

○いずみさの教育文化運動＜評価＞ A

泉佐野市教育委員会では、学力向上を学校教育における最重要課題の一つとして、平成20年度に学力向上プロジェクトチーム（学力PT）を設置した。

学識経験者、校長及び指導主事で構成される本PTは、豊かな教育文化の創造をめざすことによって初めて、学力向上が可能になり、そのためには教職員の指導力の向上と家庭・地域・社会の教育力の高まりが欠かせぬものであるとの認識のもと、「学力を支える4つの力」の育成をめざし「いずみさの教育文化運動」を提案した。この運動は平成21年度から実践されてきたが、令和6年度においては、主に4つの取り組みを実施した。

「学力を支える4つの力」の育成

①文化力の向上

- ・芸術活動やスポーツを楽しむ子どもを育成する。
- ・文化、歴史、産業などの学習活動を通して地域を愛し大切にする子どもを育成する。

②学び力の向上

- ・わかる授業、楽しい授業、学習規律を確立し、子どもの学び力を向上させる。
- ・家庭学習習慣の定着を図る。
- ・子どもが将来に夢と希望をもち学習できるようキャリア教育を推進する。

③人間力の向上

- ・基本的生活習慣の確立、道徳教育の推進により、子どもの自尊感情を高め、仲間を大切にする心を育む。
- ・人権教育の推進や人間関係力を育成する。

④教育力の向上

- ・保護者に信頼され、地域に愛される学校・園となるよう教育研究、研修を推進する。
- ・家庭や地域との協力、連携を図る。

・「4つの取り組み」

①「学びの場研修」の設定

学校園が直面する課題への対応の研究と子ども理解に基づく実践・方策の提案をとおして、すぐれた実践力をもつ教職員の育成、教育活動推進の気運の醸成を行うことを目的に、年間3回の研修会を実施した。

②「授業改善に資する学びの創造」講座の実施

子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」をめざして、先行的な実践者による研修や、具体的な授業研究を連続講座として実施することにより、教職員の実践的な指導力や授業力を高め、子どもたちのコミュニケーション力や集団づくりに基づく確かな学力を育む魅力ある授業づくりの創造についての共通理解を深めた。モデル校での公開授業を中心に市域全体に発信共有し、年間5回開催した。

③「人間関係づくりの研究」の推進

感情のコントロールや子どもたちの心育で、コミュニケーションスキル等の人間関係づくりは、学力向上にとって不可欠な要素であると捉え、市全体で取り組むことができる一つの手法として「セカンドステップ」を導入し、その研修や研究を推進する。「セカンドステップ」には次のような効果が期待できる。

- ・怒りの感情をコントロールすることができるようになる
- ・相手の気持ちがわかり、自分の気持ちを適切に表現できるようになる
- ・困った場面で、何をすればいいか理解でき行動できるようになる
- ・指導する時に、予防的に学んだことを思い出させ、どうすれば良かったかを問うことで行動をふりかえらせることができる

④「泉佐野市教育フォーラム」の開催

保護者や市民と教職員がともに研修できる場として、また教育の取り組みや成果等を発表する場として、泉佐野市PTA連絡協議会と協働で「教育フォーラム」を実施した。

・教育委員会ニュースの発行

各校園の様々な取り組みや行事を多くの人々に発信し紹介することにより、学校園間における情報交流及び共有を進め、教育内容の充実を図った。また、教育委員会主催の講演会・研修会等の情報提供や内容紹介により教職員の資質向上に努めた。

- ・発行号数 6号（市教育委員会のホームページ参照）

○少人数学級の推進 <評価> A

小学校の4～6年生の学級定数が35人以下（国は40人）となるように、小学校4校【北中小学校の2年生と6年生、長坂小学校の6年生、長南小学校の1年生、佐野台小学校の2年生と4年生】に市単費で7名の教職員の配置を行った。

取組の効果

- ・学力向上プロジェクトチーム会議を9回開催し、「いずみさの教育文化運動」を推進した。
- ・人間関係づくりの研究の一環としてセカンドステップの普及に努めた。
- ・授業改善・集団づくりについての新たな手法について提案した。
- ・少人数学級の推進により教師の関わり方に見られた効果として、子どもたちに対して、教師の目が行き届き、子どもの話をじっくり聞くことができた。また、配慮を要する子どもにきめ細かな対応ができ、良好な人間関係を築くことができた。保護者や教職員からも、先進的な取り組みであり感謝しているとの声が届いている。さらに、フィジカルディスタンスの確保による心の安定や、算数の九九や国語の漢字の定着率にも効果が見られており、基礎学力の向上に効果を上げている。

今後の課題

- ・「いずみさの教育文化運動」のこれまでの成果と課題をふまえ、さらに充実した取り組みをめざす。引き続き、教育活動のベースとなる「子ども理解」を深める研修等を進めていくことが必要。
- ・「全国学力学習状況調査」の結果は、各学校が分析を進め、それぞれの成果や課題、今後の取り組み等について、学校だよりやホームページ等で発信している。教育委員会では、子どもたちに生きて働く確かな学力を育むことを目標として、主体的な学びの実現に向けて、「泉佐野スタンダード」を活用し、授業改善の取り組みを進める。
- ・少人数学級を継続・推進するとともに、他の加配教員による習熟度別指導や専科指導を充実させ、ICT機器等も活用しながら、児童への個別最適な学習を進めていくことが必要。

イ 教育委員会の円滑な運営

目 標

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「泉佐野市教育委員会会議規則」の規定により、「泉佐野市教育委員会の事務委任規則等に関する規則」の規定に基づく事項について審議を行う。また、教育委員が学校訪問し、学校での児童・生徒の様子や学校の施設整備等、現状と問題点を把握し、学校経営・教育活動の改善を図る。

教育委員が市長、市議会議員及び府教育委員と意見交換を行うなど、また、各種研修会に参加することで教育委員としての資質・能力の向上を図るとともに、情報交換を行い、教育問題の把握・解決に努める。（教育総務課）

取組及び実績

○教育委員会運営事業<評価> A

教育委員会議の開催

- ・委員会開催回数 定例会 12回
- ・議案件数 審議件数 18件 報告件数 38件

教育委員体制 7名

教育委員会主催事業等への出席

- ・表彰式、成人式

学校、行事への参加

- ・卒業式、運動会、体育大会

校園長会への出席

教育委員国際交流事業等同行

各種研修会への参加

他市教育委員会視察

取組の効果

- ・毎月の定例会のほか、教育的課題についての意見交換や対応を検討するため勉強会等を適宜開催した。
- ・教育委員会議は、附議事項の審議を行うとともに、教育委員会事務局からの情報提供や報告事項を伝え理解が深まった。

今後の課題

- ・教育委員会の意思決定に地域住民の意向を反映していくために教育委員会事務局や学校に寄せられた意見等の教育委員への報告や教育委員会や学校が取り組んでいる施策を十分に知らせるよう、積極的な情報発信が必要。

ウ 義務教育施設等の整備

目 標

児童・生徒等の安全を守り、安心して豊かな教育環境を整備するとともに、地域住民の安全と安心を確保する。（教育総務課）

取組及び実績

・学校施設の管理

○学校施設管理事業 <評価> B

市立小中学校における学校施設管理上必要な光熱水費、役務費等を計上。また、各種施設管理委託業務を実施することにより、良好な教育環境の維持に努めた。

・事業費

令和6年度 小学校 190,862,574円 中学校 85,583,818円
(令和5年度 小学校 164,976,801円 中学校 89,589,441円)

○学校施設整備事業 <評価> B

学校施設の維持管理工事を実施することにより、児童・生徒の安全及び教育環境の改善を図るとともに、健康的な学校生活と多彩な学習環境の維持に努めた。

・事業費

令和6年度 小学校 14,066,481円 中学校 6,943,200円
(令和5年度 小学校 17,696,598円 中学校 10,512,249円)

○第二小学校整備事業 <評価> A

教育環境の改善を図るため、トイレ洋式化改修工事を行い、安全で豊かな教育環境の維持に努めるため、トイレ改修工事を行った。

また、次年度グラウンドへ夜間照明設置工事を施工するため、今年度において工事設計を行った。

第二小学校屋外照明整備工事設計業務委託、第二小学校トイレ改修工事

・事業費 82,489,000円

○長坂小学校整備事業 <評価> A

教育環境の改善を図るため、トイレ洋式化改修工事を行い、安全で豊かな教育環境の維持に努めるため、トイレ改修工事を行った。

長坂小学校トイレ改修工事

・事業費 46,409,000円

○日根野小学校整備事業 <評価> A

教育環境の改善を図るため、トイレ洋式化改修工事を行い、安全で豊かな教育環境の維持に努めるため、トイレ改修工事を行った。

日根野小学校屋内運動場トイレ改修工事

・事業費 12,859,000円

○長南小学校整備事業 <評価> A

学校施設の安全性及び機能性を確保し、教育環境の整備を図るため家庭科室の改修工事を行った。

長南小学校家庭科室改修工事

・事業費 5,335,000円

○佐野台小学校整備事業 <評価> A

今後、佐野台小学校の校区内において、児童数の増加が見込まれるため、教育施設充実及び環境の整備を目的として校舎の増築工事を行うため、事前に地質調査及び工事設計を行った。

佐野台小学校校舎増築工事地質調査業務委託、佐野台小学校校舎増築工事設計業務委託

・事業費 14,575,000円

○小学校図書室整備事業 <評価> A

教育環境の改善を図るため、図書室改修工事を行い、豊かな教育環境の維持を図るため、電算システムの導入、図書室改修工事、備品整備を行った。

小学校図書室電算システム導入業務委託、第三小学校図書室改修工事、第三小学校図書室改修機械設備工事、北中小学校図書室改修工事、備品購入他

・事業費 96,472,959円

○日根野中学校整備事業 <評価> A

教育環境の改善を図るため、トイレ洋式化改修工事を行い、安全で豊かな教育環境の維持に努めるため、トイレ改修工事を行った。

日根野中学校トイレ改修工事

・事業費 58,058,000円

○中学校屋外照明整備事業 <評価> A

市民の生涯スポーツの振興を目的として、学校教育に支障のない範囲で施設開放の拡大を図るため、日根野中学校グラウンドへの夜間照明設置工事及び工事に伴う監理

業務委託を行った。

日根野中学校屋外照明整備工事監理業務委託、日根野中学校屋外照明整備工事

・事業費 42,889,000円

○中学校図書室整備事業 <評価> A

教育環境の改善を図るため、図書室改修工事を行い、豊かな教育環境の維持を図るため、電算システムの導入、図書室改修工事、備品整備を行った。

中学校図書室電算システム導入業務委託、第三中学校図書室改修工事、備品購入他

・事業費 45,571,719円

・教育環境の充実

○学校管理運営事業<評価> B

学校における消耗品・備品等については、配分予算により執行しており、児童・生徒数、クラス数などに応じて配分された予算の中から、各学校が工夫し、計画的な整備を推進した。

・需用費（消耗品費・印刷製本費・修繕料・医薬材料費等）

令和6年度 小学校 64,044,879円 中学校 10,077,528円
(令和5年度 小学校 18,979,160円 中学校 10,512,004円)

・備品購入費（一般・教材・支援・図書備品等）

令和6年度 小学校 14,877,482円 中学校 8,650,102円
(令和5年度 小学校 20,059,924円 中学校 9,727,543円)

うち教材備品

令和6年度 小学校 3,847,940円 中学校 1,900,225円
(令和5年度 小学校 3,409,667円 中学校 2,323,105円)

うち図書購入費

令和6年度 小学校 5,753,992円 中学校 2,498,678円
(令和5年度 小学校 5,777,683円 中学校 2,481,808円)

取組の効果

- ・経年劣化による老朽化に対する継続的な施設整備や非構造部材の耐震化を行うことにより、児童、生徒、地域住民の安全確保等の向上を図ることができた。また、トイレの洋式化改修、特別教室の改修を行うことにより、教育環境の改善を図ることができた。
- ・多様な学習活動に対応するため、予算の範囲内にて可能な限り備品等の整備を行った。

「学校別トイレ洋式化率」

小学校	令和5年3月末	令和6年3月末	令和7年3月末
第一小学校	84.8%	84.8%	84.8%
第二小学校	60.2%	60.2%	93.2%
第三小学校	60.0%	97.1%	97.1%
日新小学校	88.9%	88.9%	88.9%
北中小学校	97.4%	97.4%	97.4%
長坂小学校	61.4%	61.4%	91.2%
日根野小学校	79.2%	79.2%	87.5%
大木小学校	55.0%	95.0%	95.0%
上之郷小学校	92.0%	92.0%	92.0%
長南小学校	80.3%	80.3%	80.3%
末広小学校	95.9%	95.9%	95.9%
佐野台小学校	80.8%	80.8%	80.8%
中央小学校	95.2%	95.2%	95.2%
小学校全体	79.3%	85.3%	90.7%

中学校	令和5年3月末	令和6年3月末	令和7年3月
佐野中学校	92.1%	92.1%	92.1%
新池中学校	50.0%	94.4%	94.4%
第三中学校	81.7%	81.7%	81.7%
日根野中学校	52.5%	52.5%	91.8%
長南中学校	91.4%	91.4%	91.4%
中学校全体	77.7%	82.4%	90.3%

今後の課題

- ・より安全安心な教育環境の整備を図るため、引き続き非構造部材を含めた耐震化を推進していくとともに、昭和40～50年代に整備された建物が多く、耐用年数を迎えることになる学校施設の老朽化対策として、改築より費用対効果が大きく、環境にやさしい長寿命化改修工事の実施を検討していく必要がある。
- ・新学習指導要領への対応や情報化の進展に伴う情報関連機器の配備、消耗品や備品購入など学校からのニーズに対し、予算の有効活用に努め、事務改善やコスト意識を持つなど更なる創意工夫を行い、効果的な整備充実を図っていく必要がある。

エ 学校教育事業

目 標

人と人とのふれあいを大切にするとともに、学習意欲を高め、特色ある魅力的な学校づくりに努める。(学校教育課)

取組及び実績

- ・確かな学力の育成と人権教育や支援教育、生徒指導やキャリア教育など特色ある教育の推進を行なった。(基本的な学習内容の確実な定着と自ら学び、考える力など、「確かな学力」の育成を図るとともに、児童・生徒や保護者・地域のニーズをふまえた特色ある教育課程の編成を進めた。)
- ・新学習指導要領の本格実施(小学校令和2年度・中学校令和3年度)改訂の趣旨の周知徹底を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」及び「指導と評価の一体化」の実現をめざした授業改善の推進を行った。

○学校教育研究事業 <評価> A

- ・研修会実施回数 令和6年度 17回(令和5年度 20回)
- ・教科領域別研究会 令和6年度 439回(令和5年度 447回)
- ・学校支援コーディネーター相談回数 令和6年度 74回(令和5年度 74回)
- ・学力支援コーディネーター研究・講演等回数 令和6年度 77回(令和5年度 82回)

※市主催の教職員研修

研修会名	回	内 容	講 師	人数
初任者研修 ※指導主事による 学校訪問は除く	3	①生徒指導・教育課程について	本市指導主事	35
		②子ども理解について	本市臨床心理士	22
		③地域教材・地域人材等の活用	本市職員(自治振興課・文化財保護課・まちの活性課)	34
2年次研修 ※指導主事による 学校訪問は除く	5	①2年次研修について	本市指導主事	23
		②社会体験研修A	中央図書館職員	23
		③社会体験研修B	木馬園・こども園職員	23
		④班別研究授業	本市指導主事	23
		⑤不登校について	府SSW	23

10年経験者研修	2	①10年経験者研修について	本市指導主事	25
		②実践交流会	本市指導主事	25
初任者及び2年次研修	1	実践交流会	本市指導主事	44
10年経験者及び初任者研修	1	10年経験者による研究授業	本市指導主事	44
救命救急講習	3	普通救命講習Ⅱ	泉州南広域消防本部 救命救急士	54
教育支援センター研修	2	教育支援センター活動体験	教育支援センター長 本市指導主事	15

○学校行事事業 <評価> A

学校水泳や音楽会等の学校行事の支援

・学校水泳受講者のべ人数

小学校 令和6年度 33,050人(令和5年度 37,516人)

中学校 令和6年度 5,423人(令和5年度 7,356人)

・送迎バス運行回数

小学校 令和6年度 1回(令和5年度 1回)

中学校 令和6年度 1回(令和5年度 1回)

・小中学校合同音楽会参加学校数

小学校 令和6年度 13校(令和5年度 12校)

中学校 令和6年度 5校(令和5年度 5校)

・通学時送迎バス年間運行日数

第一小学校(登校時2便、下校時2便)

令和6年度 208日(令和5年度 207日)

大木小学校(登校時1便、下校時2便)

令和6年度 208日(令和5年度 207日)

○おおさか元気広場推進事業 <評価> A

学校休業日の土曜日において、子どもの安全で安心な活動場所を確保し、地域の参画・協力を得て、子どもの体験・交流活動及び学習活動等の機会を提供している。また、平成29年度からは月1回、近隣の団体や大学生と一緒に様々な活動を実施している。令和4年度からは、2月に1回、様々な活動を実施している。

・参加児童数 令和6年度 7,952人(令和5年度 8,052人)

○小中学校教材整備事業 <評価> B

①情報教育に係るパソコン教室の機器の維持管理

平成30年度から3年間で全小中学校の教育用コンピューターの更新業務を行った。

・教育用コンピューター設置状況	小学校	13校	513台
	中学校	5校	205台

○小中学校教育研究事業 <評価> A

図書館司書による学校図書館への巡回指導。英語教育のための外国人指導者の巡回指導。英語指導助手については、令和元年度から直接雇用となり、所属中学校から近隣の小中学校に曜日を固定して巡回できるようになったため、英語教育の充実につながった。

・学校図書館司書配置状況	令和6年度	16人	(令和5年度10人)
・英語指導助手配置状況(ALT)	令和6年度	9人	(令和5年度9人)

○小中学校健康管理事業 <評価> A

児童・生徒及び教職員の健康管理をした。

・就学時健康診断受診者数	令和6年度	714人	(令和5年度701人)
・結核検診問診調査実施人数	令和6年度	6,688人	(令和5年度6,728人)
・尿検査実施延べ人数	令和6年度	12,967人	(令和5年度13,099人)
・心臓検診実施人数	令和6年度	1,438人	(令和5年度1,416人)
・脊柱側彎症検査実施人数	令和6年度	1,400人	(令和5年度1,458人)

○小中学校就学奨励事業 <評価> A

児童・生徒の保護者で、経済状態が生活保護世帯に準ずる程度と認められる世帯に対し、教材費等の一部を援助した。支援学級に入級している児童・生徒の保護者で、基準額以下の世帯に対し、教材費等の一部を援助した。

・要保護及び準要保護児童生徒援助費補助事業受給件数			
小学校	令和6年度	1,266件	(令和5年度1,131件)
中学校	令和6年度	607件	(令和5年度561件)
・新入学準備金受給件数			
小学校	令和6年度	203件	(令和5年度191件)
中学校	令和6年度	204件	(令和5年度188件)

○中学校教育振興事業 <評価> B

課外クラブ活動の資質向上を図るため、中学校に対し活動の助成を行った。また、平

成29年度より老朽化した備品整備のため、助成額を増額した。

・課外クラブ助成額

令和6年度 2,236,000円（内備品整備分 750,000円）

令和5年度 2,236,000円（内備品整備分 750,000円）

・課外クラブ数

スポーツ 令和6年度クラブ数50クラブ（令和5年度クラブ数50クラブ）

令和6年度生徒数1,248人

（令和5年度生徒数1,167人）

文化 令和6年度クラブ数20クラブ（令和5年度クラブ数23クラブ）

令和6年度生徒数 397人

（令和5年度生徒数 385人）

○泉佐野まなびんぐサポート事業 <評価> A

①「まなびんぐサポート」

放課後学習をすべての学校で実施しており、学習支援ボランティア（教職経験者・大学生・地域人材）等人材支援を行った。

・実施学校 小学校13校、中学校5校で週1～4回実施

・実施回数 小学校 令和6年度1,343回（令和5年度1,260回）

中学校 令和6年度 168回（令和5年度 200回）

②算数サポート補助教員事業

特に算数の学習・学力の定着に問題のある小学校に対し、算数補助教員を派遣し、算数の授業での学習支援を行った。

・実施学校 小学校 令和6年度4校（令和5年度4校）

・実施時間 1校の年平均 令和6年度約661時間（令和5年度約615時間）

③中学校部活動指導員配置事業

国・府の補助金を活用し、各分野に優れた地域人材を各中学校に配置し、クラブの活動を支援した。

・実施クラブ数 令和6年度14クラブ（令和5年度11クラブ）

④体力向上プログラム推進校スポーツ交流事業

平成27年2月に本市と学校法人日本体育大学との間で「体育・スポーツ振興に関する協定」を締結したことに基づき、佐野台小学校児童を日本体育大学に派遣し、有力選手による競技指導や教員を志望する学生とのスポーツ交流を通じて、積極的に運動しようとする意識の向上を図り、児童の体力向上を推進するもの。

・派遣日程 令和6年8月7日（水）～8日（木） 1泊2日間

・派遣人数 5年生 31名

引率者8名（教育委員、学校教育課2名、教頭・教員5名） 計39名

⑤学習支援ソフト導入管理業務委託事業

学習支援ソフト（東京書籍問題データベースタブレットドリル）を導入し、ICT環境により身近に触れることを通じて、積極的に自学自習を行う意識の向上を図ることを目的とするもの。

- ・対象校 ICTを活用した学習に取り組んでいる小学校
- ・対象科目 国語及び算数
- ・使用期間 令和元年度10月1日から令和11年度9月30日まで

○泉佐野市の未来を創る教育事業 <評価> A

子どもの未来を育む教育の推進につながる事業に対して補助を行う。

・泉佐野市立小学校	13校	1,450,000円
泉佐野市立中学校	5校	440,000円
泉佐野市学力向上プロジェクトチーム		1,564,000円
		(合計) 3,454,000円

- ・各校には、独自の取り組みへの支援を行うとともに、「泉佐野市学力向上プロジェクトチーム」では、授業研究や研修などの様々な取り組みを推進し、義務教育の質の向上に努めた。
- ・令和5年度より学力向上アドバイザーを小学校1校に配置。
- ・公益財団法人日本サッカー協会の「JFAこころのプロジェクト 夢教室」とは、スポーツ選手やスポーツ界の協力を得て、「夢先生」として学校に派遣いただき、仲間と協力することの大切さを教えるとともに、夢を持つこと、それに向かって努力することの大切さなどを子どもたちに伝える事業。

令和6年度 佐野台小学校 元女子サッカー日本代表の大竹七未さん

- ・いづみさの就学就職等支援給付金として、泉佐野市内の中学3年生に10万円を支給。

令和6年度 813名（令和5年度 821名）

- ・令和5年10月より塾代等助成事業を開始。塾代等助成事業とは、子育て世帯の経済的負担を軽減するとともに、子どもたちの学力や学習意欲、個性や才能を伸ばす機会を提供するため、又、不登校の児童生徒の学びの場の確保のため、一定の所得要件を設け、市内在住の小学5年生から中学3年生を対象に学習塾、文化・スポーツ教室等とフリースクールの学校外教育サービスに係る費用について各々月額5千円を上限に助成する事業。

令和6年度 延べ助成人数 2,395人、助成金額 11,835,809円

(令和5年度 延べ助成人数 1,081人、助成金額 5,010,280円)

○学校安全緊急対策事業 <評価> B

・児童・生徒の安全の確保

(児童・生徒が生涯を通じて、安全な生活を送る基礎を培う安全教育の一層の推進を図るよう努めた。特に、児童・生徒が自他の安全を確保するため、犯罪の被害にあわないための知識を実践的に理解するとともに、日常生活全般における様々な危険に適切に対応できる能力を育むなど、防災教育の充実を図った。)

- ・小学校において、学校安全管理マニュアルに基づき、門扉の施錠を行った上で、来校者のチェック、不審者発見時の通報を行うための要員の配置を行い、児童等の学校生活の安全を守った。

配置人数 令和6年度 延べ3, 868人

(令和5年度 延べ3, 847人)

時間数 令和6年度 延べ13, 198. 4時間

(令和5年度 延べ13, 136. 0時間)

○教育支援事業 <評価> A

・いじめ・不登校をなくすための取り組みの推進

(いじめ・不登校については、早期に発見し適切な対応ができるように、校内体制の整備充実を進めるとともに、支援の必要な児童生徒のための教育支援センターや教育相談体制などの一層の充実を図った。いじめ・不登校問題については、生徒指導委員会・不登校対策サポート委員会を組織し、実効性のある取り組みを推進した。すべての教職員が、児童・生徒にカウンセリングスキルをもって対応することを基本とし、SC・SSW等の専門家や関係機関と連携したチーム支援で取り組んだ。)

【不登校対策サポート委員会構成メンバー】

会長 市内小中学校長 1名

副会長 市内小中学教頭

各校の不登校担当教員

家庭の教育機能総合支援指導員 11名

事務局 学校教育課職員

不登校傾向の児童・生徒に対し、家庭と学校の間際の居場所を提供し、興味・関心のある活動やグループ活動を通して、様々な生活体験や人とのふれあいを深め、生活のリズムを取り戻し、学校復帰や社会的自立につなげることができるよう援助するため事業を行った。

- ・教育相談件数 令和6年度1, 943件 (令和5年度1, 521件)
・臨床心理士カウンセリング時間

令和6年度894時間（令和5年度962時間）

・家庭の教育機能総合支援相談件数

令和6年度1,723件（令和5年度1,325件）

・教育支援センター

さわやかルーム 児童・生徒数 令和6年度7人（令和5年度14人）

シャイン 児童・生徒数 令和6年度7人（令和5年度9人）

・フリースクール支援事業補助金

令和5年10月より、不登校児童生徒の居場所となっているフリースクールの安定的かつ持続的な運営及び活動を支援するために、フリースクール支援事業補助金を交付。

令和6年度 交付金額4,800,000円

（令和5年度 交付金額2,150,000円）

・いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための取り組みの推進

全ての子どもが安心して安全に学ぶことができるよう、各校の組織的指導体制のもと、取り組みを推進した。また、生徒指導委員会・不登校対策サポート委員会合同研修会の開催や、校内研修での指導助言等を通じて取り組みを推進した。

令和元年度の条例策定や基本方針の改訂に伴い、教職員が一人で抱え込むことなく、学校が組織的にいじめの防止等のための措置を行えるようSC・SSWが「学校いじめ防止委員会」「生徒指導委員会」「不登校対策委員会」及びケース会議等に参加できる体制づくりを行った。

PDCAサイクルにより全校の『学校いじめ防止基本方針』も改訂された。また、これらを子ども・保護者に周知するとともに、ホームページを活用し、地域の方に広く周知した。さらに、教育委員会が主体となり泉佐野市いじめ防止対策審議会を開催し、取組の検証を行い専門家の提言をいただいた。

令和6年度1回（令和5年度1回）

取組の効果

- ・授業だけでなく、様々な行事や取り組みを進めることにより、義務教育の質の向上を進めることができた。
 - ・学校生活全般にわたり児童・生徒の安全確保を進めることができた。
 - ・学力支援コーディネーター等の活用が進み、教員の授業力の向上を図ることができた。
 - ・「学校いじめ防止委員会」の一員としてSC・SSW等の専門家を加え、いじめを見逃さず、いじめを積極的に認知し、子どもたちを組織的に見守る体制づくりが進んだ。
- 令和6年度いじめ認知件数 388件 解消率 71.9%（令和6年度3月時点）

- ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応について、いじめ防止対策審議会より提言をいただいたことで、取組の方向性がより明確になった。

今後の課題

- ・授業研究や職員研修をさらに進め、授業改革に努める。
- ・校門の受付員については、今後とも配置できるよう努める。
- ・コロナ禍において、不登校傾向の児童・生徒が増加しているため、心理の専門家ＳＣや、福祉的な視点で子どもがおかれている環境に働きかけるため、ＳＳＷ等との連携を推進し、教員を支援する体制を充実させる。
- ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応のため、いじめ防止対策審議会からの提言をもとに、各校の実態に応じた取組の充実に努める。
- ・とりわけ全児童生徒を対象にした「発達支持的生徒指導」の充実や子どもが主体的に学べる授業づくり、児童会生徒会活動等、子ども主体の活動の活性化等にとりくみ、児童生徒一人ひとりの個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることができる魅力ある学校づくりに努める。

オ 小中一貫教育

目 標

泉佐野市では、泉佐野市小中一貫教育基本方針（令和元年11月8日）に基づき、令和2年度より現行制度（小学校6年間、中学校3年間）の中で、教職員の連携を深め、児童生徒の9年間の学びと育ちをつなぐ視点で、教育活動をさらに充実させ、全ての中学校区で小中一貫教育の取組みを推進する。

取組及び実績

○泉佐野市小中一貫教育推進事業 <評価> A

泉佐野市小中一貫教育推進委員会の開催

・委員会開催回数 令和6年度 3回（令和5年度 3回）

・泉佐野市小中一貫教育推進委員体制

学識経験者（1名）

校長会代表者（3名）

小中一貫コーディネーター（5名）※市費により配置

市教育委員会職員（3名）

取組の効果

小中学校の教職員が積極的に交流を行い、合同研修等を通して小中一貫教育の視点で各校の取組みをつなぎ、活動が活発になっている。児童会・生徒会の交流を定期的に行い、児童・生徒間の交流も活発に行われている。

また、各中学校区の「めざす子ども像」を設定し、小中学校の教職員が9年間の見通しを持って児童・生徒の育成に取り組んでいる。

今後の課題

意識調査の結果より、どの校区においても、「授業がよくわかる」の数値が顕著に下がる。

今後、小中の教員がお互いの学習内容について理解を深める必要があり、「泉佐野スタンダード」を活用した相互授業参観、小中間の研究協議への参加等、授業づくり面の小中連携の強化が必要である。

また、教科だけに関わらず小中学校9年間の教育課程を編成するにあたり、小小連携、小中連携をさらにすすめ、児童・生徒の実態・発達段階を踏まえた各領域での目標を設定していくことが必要である。

カ 夜間中学

目 標

義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会確保に関する法律第14条において、地方公共団体に就学の機会の提供が義務付けられた。戦後の混乱期に中学校未卒業となった高齢者、不登校で実質中学校に通えていない人、母国で十分な教育を受けられなかった外国籍の人の「学ぶ権利」を保障する。

取組及び実績

○夜間中学校管理運営事業 <評価> A

- ・開設場所 佐野中学校
- ・開設時期 令和6年4月
- ・クラス数 3クラス
- ・授業時間 17時30分～20時45分
- ・在籍生徒数（2024年5月1日現在、（ ）内は男・女）

	1年	2年	3年	計
生徒数	16 (10・6)	14 (9・5)	11 (5・6)	41 (24・17)
クラス数	1	1	1	3

・年齢別生徒数

区 分	学齢者	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	在籍者数
日本国籍 (人)	0	3	0	0	0	1	1	5
外国籍(人)	0	1	5	11	16	3	0	36
合計(人)	0	4	5	11	16	4	1	41
(うち既卒者数)	0	(4)	(5)	(11)	(13)	(4)	(1)	(38)

・国籍別生徒数

日本(5)、中国(7)、ネパール(9)、フィリピン(10)、インド(7)、パキスタン(1)、ドイツ(1)、ベトナム(1)

・在住市町別生徒数

市町	忠岡町	岸和田市	泉佐野市	泉南市	阪南市	計
人数	1	1	32	6	1	41

取組の効果

佐野中学校夜間学級を開設し、義務教育を十分に受けられなかった人が41名入学し、

義務教育の機会を保障する場ができた。生徒は国籍も年齢も様々であるが、自分のペースで学ぶことができている。また、近隣市町からの生徒の受け入れも行っているため、外国人の居住者が急増するなか、日本語、日本文化について義務教育を通じて学びたい外国人の広域的な受皿となっている。

今後の課題

外国人生徒の割合が9割近くとなっているが、令和2年度国勢調査によると義務教育未修了者が市内に826人いるという調査結果となっており、日本人のニーズはまだまだあると思われる。今後、さらに夜間学級の周知に努めるとともに、ニーズの掘り起こしが必要である。

また、開設したばかりであるため、日本語教育をはじめとした授業手法の研究、研修が必要である。

【子育て・教育】

(4) 学校教育に関すること

【地域連携の充実】

②「地域教育協議会」の充実

目 標

「地域教育協議会」活動の充実と発展を図る。 (学校教育課)

取組及び実績

○5中学校区の地域教育協議会の主な取り組み <評価> A

校 区	名 称	日 程	参 加 者
佐野中学校区	すこやかフェスタさの	10月20日(日)	1,048人
新池中学校区	新池ふれあいフェスタ	11月 9日(土)	620人
第三中学校区	和い輪いまつり	10月20日(日)	391人
日根野中学校区	環境浄化活動	7・12・3月	740人
長南中学校区	ふれあい祭	11月 9日(土)	700人

○泉佐野市地域教育協議会・地域コーディネーター連絡会(研修会)の開催 <評価> B

2月28日(金)「体験型 多様な子どもとの関わり方」

特定非営利活動法人 ナック 副理事長

取組の効果

- ・各地域教育協議会が工夫、協力して活動することにより、地域のさまざまな機関・団体・個人などの参画がすすみ、取組みが充実してきた。
- ・地域コーディネーター連絡会、研修会を実施できた。
(5中学校区のこども園・小学校・中学校の教職員、PTA、地域教育協議会、人権を守る市民の会、青少年指導員会、学校協議員、家庭支援員、福祉ボランティア、主任児童委、地域コーディネーターの参加があった。)

今後の課題

- ・地域教育協議会の活動に参加、参画してもらえる新しい人材をさらに確保する。
- ・子どもが主体的に参加、参画する取組みを推進する。
- ・障害のある子どもや外国籍の子どもなどへの、地域での支援を進める。

【子育て・教育】

(4) 学校教育に関すること

【人権教育の充実】

③人権教育の推進

目 標

人権教育の効果的な推進のための教職員研修の充実を図る。(学校教育課)

取組及び実績

○教職員研修の充実 <評価> B

研修会名	回	内 容	講 師	人数
校園長人権教育研修	1	「LGBTQ の児童生徒の存在を認識した学校での取り組み」	宝塚大学 看護学部教授	21
教頭人権教育研修	1	「わたしと部落問題」	部落解放同盟大阪府連合会 向野支部 青年部 事務局長	18
人権教育推進委員研修会	1	人権教育の推進について	本市指導主事	18
人権教育研修講座	5	・ 集団づくりについて	大阪府教育センター 指導主事	35
		・ 多文化共生と在日外国人教育について	大阪府教育センター 指導主事	38
		・ 市外フィールドワーク 羽曳野市、水平社博物館	NPO法人サポート ネットワークぬくもり職員	21
		・ 性の多様性について	大阪府教育センター 指導主事	33
		・ 反戦平和教育について	フリージャーナリスト	46
新転任人権教育研修	4	・ 「人権教育について」	本市指導主事	46
		・ 「同和教育について」	本市指導主事	48
		・ 人権教育実践報告会 (2回)	本市小・中学校教諭、 指導主事	48
支援教育研修	3	・ 障がいの状態等に応じた指導・支援の在り方について	大阪府教育センター 指導主事	31
		・ 家庭・教育・福祉の連携 「トライアングル」プロジェクトの推進にむけて～障	泉佐野市立児童発達 支援センター職員	20

	害のある子と家族をもっと 元気に～ ・個別の教育支援計画と個 別の指導計画の作成と活用 について	大阪府教育センター 指導主事	16
--	--	-------------------	----

取組の効果

- ・教職員のニーズに基づいた研修を企画し、実施することができた。
- ・性の多様性や世界の戦争や紛争に関する事など、現在の社会の状況に応じた内容を扱い、理解を深めることができた。

今後の課題

- ・これからも教職員のニーズに合った研修を企画する。
- ・教職員が研修に参加できるように、校内のサポート体制を整備するよう、管理職に依頼する。

④人権教育の充実（人権教育の充実のための支援）

目 標

すべての子どもたちが大切にされる学校づくりへ支援する。（学校教育課）

取組及び実績

○障害児支援のための取り組み <評価> B

①障害のある児童・生徒への介助員、加配職員配置数

人数 小学校 令和6年度84人（令和4年度82人）

中学校 令和6年度14人（令和4年度15人）

②介助員研修

開催日	タイトル	講師
7月10日（水）	子どもとのよりよい関わりをめざして	本市指導主事
11月27日（水）	インクルーシブな社会の実現に向けて	本市指導主事

③相談事業

特別支援教育学校巡回相談事業 令和6年度 41回（令和5年度 34回）

支援教育相談 令和6年度 220回（令和5年度258回）

理学療法医師診察 令和6年度 3回（令和5年度 3回）

④就学支援委員会

5月10日（金）、11月5日（火）、11月6日（水）、11月7日（木）

○外国籍児童生徒支援のための取り組み <評価> B

①日本語通訳の必要な児童生徒及び保護者への通訳派遣

人数 小学校 令和6年度24人（令和5年度19人）

中学校 令和6年度12人（令和5年度 9人）

○進路支援のための取り組み <評価> A

①進路選択支援事業（学費等、進学や就学に関する相談）

相談件数 令和6年度37件（令和5年度48件）

②泉佐野市「貸付型奨学金」事業

本市に住所を有する世帯に属し、経済的な理由により進学が困難な高校生・大学生に奨学金を貸付けました。

	貸付月額	令和6年度	令和5年度
高等学校	5,000円	3人	2人
国公立大学	30,000円	0人	0人
私立大学	40,000円	5人	5人
合 計		8人	7人

③泉佐野市「給付型奨学金」事業

将来の夢を見据えながら真摯に学習等に取り組んでいる泉佐野市立中学校3年生の生徒の就学就職等に要する費用の一部（10万円／対象生徒1人）を給付。

※令和4年度以降、物価高騰などを理由に給付事業の拡大を行うため当該事業を休止し、泉佐野市の未来を創る教育事業において、いずみさの就学就職等支援給付事業として実施

④奨学金啓発チラシ（各種奨学金の啓発）

対 象 中学生・保護者（全員、1月は3年生）

配付月 7月、9月、1月

⑤奨学金等説明会

中学生保護者を対象 9月3日～13日の期間 5中学校にて開催

○保護者支援のための取り組み <評価> B

P T A 人権教育研修会の実施

小学校 令和6年度8校（令和5年度10校）

中学校 令和6年度4校（令和5年度 3校）

取組の効果

- ・相談事業への認識が深まり、障害のある児童・生徒への効果的な支援につながった。
- ・外国語通訳の迅速な派遣により、外国籍児童・生徒の支援を行うことができた。
- ・奨学金等に関する情報提供、指導、相談の充実により、大阪府育英会等の予約がスムーズに行えた。また、チラシや説明会をとおして高校等進学後の奨学金制度についての周知も行うことができた。

今後の課題

- ・介助員の配置など、障害のある児童・生徒への支援を引き続き適切に行う。

- ・外国語通訳者の必要性が高まっており、適切な配置を検討していく。
- ・巡回相談や研修を通して、学校園の取り組みの支援の一層の充実を図る。

【子育て・教育】

(4) 学校教育に関すること

【学校給食の充実】

⑤安心・安全な小学校給食の提供、食育の推進

目 標

- ・学校給食用物資の選定から納品・調理・配送する上で衛生管理を徹底し、安心・安全な学校給食を提供する。
- ・小学校給食が安心・安全に提供できるよう、施設の整備並びに機器の更新・保守点検に努める。
- ・家庭・学校・地域と連携し、食育の推進を図る。 （教育総務課）

取組及び実績

- ・小学校給食の充実

○給食事業 <評価> A

安心・安全な小学校給食を提供はもとより、食の安全性・食を通じた健康に関する啓発活動及び知識の普及活動を進める。

(小学校13校)

- ・給食提供数令和6年度 児童数4,486人、職員数425人
(令和5年度 児童数4,585人、職員数428人)
- ・年間給食回数 令和6年度 196回
(令和5年度 196回)

各種連絡会議の状況	令和6年度	令和5年度
献立作成会議	年 8回	8回
学校給食会理事会	年 1回	1回
学校給食用物資納入業者登録審査委員会	年 1回	1回
学校給食用物資審査会	年 1回	1回
学校給食用物資購入委員会	年 1回	1回
学校給食事務担当者会	年 1回	1回
物資運営委員会(公益財団法人 大阪府学校給食会)	年 3回	3回
その他料理教室等開催の状況	令和6年度	令和5年度
郷土の農産物を学ぶ教室	年 1回	1回
各校家庭教育学級と共催の料理教室	年 3回	1回
ふれあい料理教室(秋・冬)	年 2回	2回
小学校児童への食指導	年 235回	118回
P T A 給食試食会	年 5回	3回
センター見学	年 19回	13回

取組の効果

- ・学校給食施設の整備並びに機器の保守点検に努めたことにより、一年を通して、安定した事業運営を行うことができた。
- ・児童応募献立を行い、学校給食献立として採用し、献立表に記載することで、児童が小学校給食に対してより興味を持ってもらえるような取り組みを継続的に行うことができた。
- ・大阪府産の給食用食材（特に米・野菜）を小学校給食用食材に使用し、地産地消の取り組みを継続的に行うことができた。
- ・保護者や小学校と連携を図り、食物アレルギーを持つ児童に対して、情報の提供を始めとする相談対応、安全な代替品や補食の提供など継続的に講じることができた。
- ・食育の推進と児童生徒の健康づくりについては、安全で安心な給食の提供を行うとともに、物価高騰対策等として実施してきた無償化を今年度も継続した。
- ・魅力のある美味しい給食を提供することにより、引き続き食品ロスの削減に努めるとともに、SDGsの観点から、有機農産物を使った給食の提供を開始した。
- ・小学校の学校給食センターにつきましては、施設・設備の老朽化に伴い建替えを進めてまいりましたが、食育指導の推進や質の高い安全・安心な給食の提供を目的に、自校方式及び親子方式により、給食調理室の建設に向けて着手し、令和6年度は、第二小学校、北中小学校及び末広小学校において実施設計・地質調査を、日根野小学校、長南小学校、中央小学校において基本設計を実施した。

今後の課題

- ・有機農産物を取り入れたオーガニック給食を持続可能な社会の実現（SDGs）の観点からさらに進める。
- ・児童と触れ合いながら、より良い給食を提供できるようにセンター方式から自校方式の給食提供へと移行する為に3カ年の建て替え計画を着実に進める。
- ・残食状況を分析することによって、苦手な食材も克服できるような献立の工夫を行い、栄養バランスを学習する機会へと繋げていきたい。
- ・食品ロス削減に努め、残食の分析やロスができるだけ少ない調理等の取り組みが必要。
- ・施設や設備の老朽化による修繕等については、緊急性・重要性に応じて優先順を考慮する必要がある。
- ・栄養教諭を活用し、より良い食育推進（中学校での食育授業等）を実施できるような環境づくりが必要である。また、保護者、中学校、地域と連携を図り、小学校から中学校にかけての発達段階に応じた「食育」を系統的に推進できるような環境づくりを図る。
- ・衛生管理の徹底及び感染症の予防対策、ノロウイルス感染を含む食中毒事故を未然に防ぐ施策に係る予算確保や感染時の対応マニュアル等の実行について、関係機関との調整及び体制を構築する必要がある。
- ・地産地消の観点から、現在100%の地場産米の使用を継続しながら、エコ米（農薬の使

用を控えて収穫した米)への品種変更を行い、野菜に関しても可能な限り地場産物を使用するとともに有機野菜の使用量を増やすように努めていきたい。

⑥安心・安全な中学校給食の提供、食育の推進

目 標

- ・学校給食用物資の選定から納品・調理・配送する上で衛生管理を徹底し、安心・安全な中学校給食を提供する。
- ・中学校給食が安心・安全に提供できるよう、施設の整備並びに保守点検に努める。
- ・家庭・学校・地域と連携し、食育の推進を図る。（教育総務課）

取組及び実績

- ・中学校給食の充実

○中学校給食事業 <評価> A

安心・安全な中学校給食の提供はもとより、食の安全性・食を通じた健康に関する啓発活動及び知識の普及活動を進める。

(中学校 5校)

- ・給食提供数 令和6年度 生徒数2,160人 職員数202人
(令和5年度 生徒数2,251人 職員数205人)

- ・年間給食回数 令和6年度 188回
(令和5年度 190回)

各種連絡会議の状況	令和6年度	令和5年度
献立作成会議	年 8回	8回
学校給食会理事会（臨時含む）	年 1回	1回
学校給食用物資納入業者登録審査委員会	年 1回	1回
学校給食用物資審査会	年 1回	1回
学校給食用物資購入委員会	年 1回	1回
学校給食事務担当者会	年 1回	1回
物資運営委員会（公益財団法人 大阪府学校給食会）	年 3回	3回

その他料理教室等開催の状況	令和6年度	令和5年度
中学校・生徒への食指導	年 166回	183回
P T A 給食試食会（研修会を含む）等	年 2回	1回
料理教室（生徒対象）	年 1回	1回

取組の効果

- ・学校給食施設の整備並びに機器の保守点検に努めたことにより、安心・安全な中学校給食を安定的に提供することができた。
- ・魅力のあるおいしい給食を提供することにより、引き続き食品ロスの削減に努めるととも

に、持続可能な社会の実現（SDGs）に向けた取り組みとして有機農産物を使った給食の提供を開始した。

- ・ 小学校給食用物資と中学校給食用物資の選定を合同で実施することで、給食用物資の効率的な選定と安定的な確保ができた。また、できる限り地元の給食用食材（特に米・野菜）を学校給食に使用し、地産地消の取り組みを継続的に行うことができた。
- ・ 令和2年5月から実施している学校給食費の無償化を今年度も継続することができた。
- ・ 令和6年度平均残菜率1.98%（令和5年度平均残菜率3.07%）
※全国平均値6.93%（環境省（平成27年4月）「平成26年度学校給食センターからの食品廃棄物の発生量・処理状況調査結果」を参照）
- ・ 生徒からの応募献立を学校給食に採用し、献立表に記載することで生徒が学校給食に興味を持ってもらえるような取り組みを継続的に行うことができた。
- ・ 保護者や中学校と連携を図り、食物アレルギーを持つ生徒に対して、情報の提供を始めとする相談対応、安全な代替品や補食の提供など継続的に講じることができた。

今後の課題

- ・ 設立11年目の運営となり、設備の突発的な修繕や調理機器等の消耗摩耗を考慮し、緊急性、必要性にも応じた適切な対応が必要である。
- ・ 有機農産物を取り入れたオーガニック給食を持続可能な社会の実現（SDGs）に向けてこれからも進めていく。
- ・ 栄養教諭を活用し、より良い食育推進（中学校での食育授業等）を実施できるような環境づくりが必要である。また、保護者、中学校、地域と連携を図り、小学校から中学校にかけての発達段階に応じた「食育」を系統的に推進できるような環境づくりを図る。
- ・ 衛生管理の徹底及び感染症の予防対策、ノロウイルス感染を含む食中毒事故を未然に防ぐ施策に係る予算確保や感染時対応マニュアル等の実行について、関係機関との調整及び体制を構築する必要がある。
- ・ 災害、停電等に伴う突発的な給食の中止や変更の周知方法については、迅速で効率的な方法を確立する必要がある。
- ・ 中学校給食センターの給食運営や安全性等について、中学生や保護者にもっと知ってもらうための取り組みを行う。
- ・ 地産地消の観点から、地場産米の使用に加え、農薬を控えて収穫された特別栽培米についても使用し、野菜については可能な限り地場産物を使用できるよう努めていきたい。また、有機野菜も取り入れていくよう努める。

【子育て・教育】

(5) 生涯学習・スポーツに関すること

【生涯学習の推進】

①生涯学習の推進

ア 生涯学習の環境づくり

目 標

市民一人ひとりが個性や能力を伸ばし、生きがいのある充実した生活を送るために、生涯を通して学習活動ができる環境づくりを推進する。（生涯学習課）

取組及び実績

・生涯学習の推進

社会教育団体や文化団体の育成と総合的な学習機能や情報の提供に努めた。

○識字学級運営事業 <評価> A

読み書きの練習を中心とした識字学級に加えて、日本語・漢字などの学習を希望する外国人も受け入れ、事業推進に努めた。

・識字学級の開催 令和6年度 158回（令和5年度 266回）

・よみかきこうりゅうかいへの参加

開催日：11月10日（日） 会場：大阪府教育センター

・識字学級生作品展（大阪府教育庁との共催）

展示期間：9月7日（土）～9月13日（金） 会場：生涯学習センター

・人権作品・識字学級生作品展

展示期間：2月22日（土）～3月2日（日） 会場：生涯学習センター

○社会教育団体支援事業 <評価> A

社会教育団体・文化団体の自主的活動を支援することにより、市民全体の文化の向上を図った。

・泉佐野市少年少女合唱団の育成と支援（活動：定期練習、定期演奏会他行事出演7回）

・泉佐野市民オーケストラの育成と支援（活動：定期練習、定期演奏会他行事出演2回）

・泉佐野市文化協会への支援と補助金の交付

・泉佐野市の特産品タオルを使った「第15回 全国タオル筆で描く絵てがみコンクール」を開催。

応募総数 令和6年度 1,558作品（令和4年度 1,566作品）

・「全日本アマチュア将棋選手権 in 泉佐野」

2月2日（日） 会場：泉の森ホール

・関西フィルハーモニー管弦楽団 泉佐野公演

6月23日（日） 会場：泉の森ホール

市内在住の小学生から高校生とその保護者2人1組を300組招待

・泉佐野フォトコンテスト

応募総数 令和6年 フォト部門 81点 インスタ部門 42点 (令和5年 93点)

○生涯学習推進事業 <評価> B

泉佐野市出前講座「かがやき」を実施し、市の事業や施策を講座内容として市職員が説明することにより、市民の市政に関する理解を深め、生涯学習による町づくりを図った。

・泉佐野市出前講座「かがやき」の実施 (メニュー35講座)

実施講座 令和6年度 4講座 22回開講 延べ受講者数 734人
(令和5年度 6講座 22回開講 延べ受講者数 687人)

*主な参加団体は、企業・町会・学校・一般市民等

○文化祭事業 <評価> B

市民が日頃の芸術文化・生涯学習活動の成果を発表する場として、泉佐野市文化祭を開催した。協賛事業の来場者は増加したが、開催事業が減少した。

・市民展 (市主催事業) の開催

令和6年度 出展数280点 展示期間3日間 来場者数1,967人
(令和5年度 出展数272点 展示期間3日間 来場者数2,272人)

・協賛事業の開催

令和6年度 協賛団体 7団体 来場者数 3,488人
(令和5年度 協賛団体 9団体 来場者数 3,434人)

取組の効果

- ・9月の識字学級作品展には、大阪府教育庁より府内の日本語学級の様子を撮影した写真パネルを借用しあわせて展示を行った。
- ・文化祭市民展は、出品点数は増加したが、来場者数は減少となった。協賛事業は、開催数が減少したが、来場者数は増加した。
- ・泉佐野市少年少女合唱団は、活発に練習を行い、令和6年8月には友好都市のモンゴル国での国際交流・演奏会出演などイベント等での出演依頼に積極的に参加していた。
- ・市民オーケストラは、幅広い年齢層の団員が定期演奏会等、熱心に文化活動に取り組んでいた。
- ・「全国タオル筆で描く絵てがみコンクール」は、前年度と同程度の出品数で、多くの応募があり、審査・展示・表彰式を予定通り実施した。
- ・「全日本アマチュア将棋選手権 in 泉佐野」は全国的な将棋ブームの影響もあり、遠方からの多くの方に参加いただいた。
- ・「関西フィルハーモニー管弦楽団」泉佐野公演は日曜日に開催し、市内在住の子どもとそ

の保護者を無料招待するなど、市民が身近に音楽を楽しむ機会を提供し、文化・芸術を味わう土壌の形成に努めた。

- ・令和5年度より、泉佐野市の観光名所や祭礼などを撮影した写真を募集した「泉佐野フォトコンテスト」を開催したが令和6年度は新たにインスタ部門を設け、多くの方より泉佐野市の魅力を伝える写真が応募された。

今後の課題

- ・識字学級は、樫井の識字学級が再開され市内3か所それぞれで熱心に学ぶ様子が見られた。近年は受講者数が少ない状態が続いているが、一方で外国人学習者や障がいのある学習者など「受講者の多様化」が進んでいる。識字学級が「新しい」学習者にどう向き合うかということは、講師不足とともに今後の課題となってきた。
- ・出前講座「かがやき」は、一定の利用がある一方で、受講される講座に片寄りがあり、市民に広く市の事業や施策を理解してもらう目的から、今後もなお一層の広報を実施していく必要がある。
- ・文化祭市民展については、出品点数は増加となったが、来場者数は減少した。今後も生涯学習センター等の施設で芸術活動をしているクラブや市内の高等学校、支援学校高等部、カルチャーセンターに引き続き出品の呼びかけを実施して、出品数及び来場者数の増加につなげたい。
- ・協賛事業は7事業の開催で前年度より減少した。会員の高齢化や規模縮小等の課題もあり、新しい事業の参加等課題となっている。
- ・少年少女合唱団、市民オーケストラはともに新型コロナウイルス感染症の影響で新規団員が加入しづらい状況が続いていたが、少年少女合唱団は令和7年3月開催の演奏会で一緒に歌うメンバーを募集、市民オーケストラは楽器の演奏講座を開催するなど、積極的に団員募集活動を行い、その後の入団につなげていた。今後も活動を継続するために新しい勧誘方法を検討する必要がある。

イ 生涯学習の推進

目 標

市民一人ひとりが個性・能力を伸ばし、生きがいのある充実した生活を送るために、生涯を通して学習活動が行える「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べるまちづくりを推進する。(生涯学習センター)

取組及び実績

- ・社会教育施設での活動の充実（総合的な学習機会や情報の提供）

生涯学習センター及び公民館は、市民の自主的な生涯学習の場として、クラブ等の充実を図り、また、各施設において、ボランティア講師の活用を図るなど、多様な各種講座を開催した。

○クラブの活動状況 <評価> A

生涯学習センター及び公民館に登録しているクラブへの支援を行なった。

登録クラブ数 令和6年度 217クラブ（令和5年度 215クラブ）

クラブ発表会 発表の部 2月22日（土）、23日（日）会場：生涯学習センター
展示の部 3月15日（土）、16日（日）

会場：生涯学習センター、佐野公民館、長南公民館

（日根野公民館は「公民館まつり」として同日程で開催）

○各種講座の開催 <評価> A

市民のニーズを考慮しながらコロナ禍以前の定員数で開催、順調に利用が戻ってきている。

講座開催状況

延べ開催数

令和6年度 652回（令和5年度 593回）

延べ参加人数

令和6年度 12,988人（令和5年度 10,279人）

- ・社会教育施設の管理及び運営

指定管理制度に移行し、地域住民の学習ニーズに対応するための拠点施設として、より多くの人が利用できるよう適正な施設管理を行った。令和5年度より利用者が増加した。

○施設の年間利用者数 <評価> B

生涯学習センター及び公民館を利用した年間延べ利用者数

令和6年度 163,143人

（令和5年度 154,490人）

(内訳) 生涯学習センター 87,769人
 (令和5年度 83,283人)
 佐野公民館 23,338人
 (令和5年度 23,034人)
 長南公民館 12,620人
 (令和5年度 12,263人)
 北部公民館 22,299人
 (令和5年度 20,881人)
 日根野公民館 17,117人
 (令和5年度 15,029人)

・自学自習支援事業 (主に小・中学生)

【 令和6年 】

会 場	実施期間	対象者	参加人数 (名)	回数 (回)
らいふらいんぷらざ いずみさの	5/11 ~3/8	小学2年 ~6年生	505	29
生涯学習センター			508	29
日根野中学校多目的室			498	29
小 計			1,511	87
らいふらいんぷらざ いずみさの (小学生自学自習時の中 学生質問対応)	6/8 ~3/8	中学1年 ~3年生	29	27
生涯学習センター (小学生自学自習時の 中学生質問対応)	5/11 ~3/8	中学1年 ~3年生	36	29
生涯学習センター (小学生自学自習時の 中学生不登校相談)	5/11 ~3/8	中学1年 ~3年生	35	29
生涯学習センター (テスト前)	5/10 ~2/19	中学1年 ~3年生	577	34
小 計			677	119
ゆまにて会場 (まなびの居 場所 COZY SPACE)	4/1 ~3/31	小学生~専門学 生・大学生他	6,066	298
上記会場+相談件数 (個人・学校含む)	4/1 ~3/31	小学生~専門学 生・大学生他	199	

小 計	6, 2 6 5	2 9 8
合 計	8, 4 5 3	5 0 4

【 令和5年 】

会 場	実施期間	対象者	参加人数（名）	回数（回）
らいふらいんぷらざ いずみさの	5/13 ～3/9	小学2年 ～6年生	503	28
生涯学習センター			454	
日根野中学校多目的室			491	
小 計			1, 448	84
生涯学習センター (小学生とブッキング時)	6/3 ～3/9	中学1年 ～3年生	62	26
生涯学習センター	5/9 ～2/20	中学1年 ～3年生	553	32
小 計			615	58
ゆまにて会場（まなびの居 場所 COZY SPACE）	4/1 ～3/31	小学生～専門学 生・大学生他	5, 799	286
上記会場+相談件数 (個人・学校含む)	4/1 ～3/31	小学生～専門学 生・大学生他	232	
小 計			6, 031	286
合 計			8, 094	428

取組の効果

- ・講座については、市民の多種多様化する価値観に対応すべく、創意工夫した新規講座を実施している。
- ・最新の感染状況には気を付けながら、市民が安心して学習や集会活動が行えるよう努めた。

今後の課題

- ・講座内容のより一層の充実、広報活動の拡充を図る。
- ・リピーターの確保に努める一方、リピーター以外の施設利用及び講座への参加を促進する。
- ・潜在的課題やニーズを把握し、指定管理者とともに、だれもが学習に取り組みやすくなるよう学習の情報や場の提供を充実させていく。
- ・漢字能力検定に加えて令和2年度より英語検定（受付・会場運営・検定試験）を実施し、多くの受験者がいた。今後、市民の学習意欲を高める動機づけとなるよう、継続して能力

検定を実施していきたい。

ウ 資料・情報提供の推進

目 標

図書館においては、市民の本棚として、市民の求める資料・情報を提供するために新鮮な資料を豊富にバランスよく収集し、子どもから大人まで、あらゆる人びとに応じたきめ細かなサービスを提供し、市民の幅広い活用を進める。（生涯学習課）

取組及び実績

・図書館の情報拠点化

図書館は、自ら学び自ら高めようとする市民の生涯学習への意欲を支援し、知的な出会いの場として、さまざまな活動の情報拠点として機能充実に努めた。

○図書館運営事業 <評価> A

中央図書館・移動図書館・佐野公民館図書室・長南公民館図書室・北部公民館図書室・日根野公民館図書室の運営及び、図書の管理・貸出業務。映画会・おはなし会の開催などの利用促進に関する業務。

令和3年4月からインターネット上で電子図書が利用できるいずみさの電子図書館を開設。

図書館に足を運ぶ機会のない市民に利用いただけるよう市内のショッピングセンター内において電子図書館体験会を開催した。

令和4年4月、元町に新しく「佐野まちライブラリー」を開設、児童書、一般書のほかビジネスや起業に関する図書のコーナーを設置して、新規図書館の利用者開拓に努めた。

11月を読書活動推進月間として、図書館内でのイベントのほか、イオンモール日根野において、「図書館フェスタ in イオンモール日根野」を開催し、日頃図書館に足を運ばない市民に対しても図書館サービスについて周知し、利用につながるよう努めた。同じく読書活動推進月間の特別企画として、元 NHK アナウンサーで現在フリージャーナリストの池上彰氏の市民講演会「この時代に本を読む意味」を開催した。

令和5年度から新たにいこらも～る泉佐野において、「図書館フェスタ in いこらも～る泉佐野」を開催した。

1 蔵書状況

(1) 蔵書冊数

(点)

	館名	中央	移動図書館	佐野	長南	北部	日根野	計
令和6年	総数	470,804	16,544	47,330	44,968	25,234	44,345	649,225
	(うち児童書)	237,221	9,833	15,144	16,454	10,306	17,265	306,223
	(うち視聴覚資料)	20,492	0	1,828	1,795	168	73	24,356
令和5年	総数	463,934	15,846	45,836	43,928	24,228	43,006	636,778
	(うち児童書)	235,809	9,508	14,686	16,115	9,995	16,751	302,864
	(うち視聴覚資料)	20,533	0	1,822	1,788	156	72	24,371

(2) 新聞・雑誌購入タイトル数

(点)

年度	館名	中央	佐野	長南	北部	日根野	計
令和6年	新聞	14	6	7	7	7	41
	雑誌	76	24	21	26	27	174
令和5年	新聞	14	6	7	7	7	41
	雑誌	78	24	21	25	27	175

(3) 図書購入冊数

年度	図書費(円)	購入冊数(冊)
令和6年度	20,845,000	9,362
令和5年度	20,885,097	9,801

2 利用状況

(1) 個人貸出冊数

(冊)

	館名	中央	移動図書館	佐野	長南	北部	日根野	計
令和6年	総数	305,422	35,495	57,612	22,400	17,711	48,750	487,390
	(うち児童書)	78,710	16,570	20,639	6,003	7,167	28,273	157,362
	(うち視聴覚資料)	11,099	229	2,044	1,276	232	318	15,198
	(うち学校図書館)	105,504						105,504
令和5年	総数	203,812	28,998	57,097	22,906	18,487	47,858	379,138
	(うち児童書)	80,403	15,316	18,530	6,315	7,931	27,886	156,381
	(うち視聴覚資料)	12,013	134	1,823	1,082	231	169	15,452

(2) 個人貸出利用者数 (人)

館名	中央	移動図書館	佐野	長南	北部	日根野	計
令和6年度利用者数	41,250	11,624	14,454	5,357	4,226	9,210	86,121
令和5年度利用者数	41,975	8,132	14,213	5,373	4,260	9,111	83,074

(3) 図書館来館者数 (人)

館名	中央	佐野	長南	北部	日根野	計
令和6年度利用者数	120,818	37,358	15,440	18,791	24,411	216,818
令和5年度利用者数	118,172	36,074	15,831	17,524	24,826	212,427

(4) 団体利用

	令和6年度	令和5年度
登録団体数	210団体	186団体
貸出利用回数	963回	914回
貸出冊数	17,237冊	17,530冊

(5) 予約・リクエスト処理件数 (件)

館名	中央	移動図書館	佐野	長南	北部	日根野	計
令和6年度	34,177	17,661	14,344	4,394	3,651	8,532	82,764
令和5年度	37,011	10,137	13,181	4,371	4,345	8,184	77,229

(6) レファレンス処理件数 (件)

館名	中央	移動図書館	佐野	長南	北部	日根野	計
令和6年度	2,123	344	1,060	624	278	615	5,044
令和5年度	2,053	291	897	636	368	817	5,062

(7) 電子図書館利用件数

	令和6年度	令和5年度
資料冊数(年度末)	13,038冊	11,730冊
ログイン人数	5,237人	2,081人
ログイン回数	14,481回	7,352回
貸出冊数	30,542冊	16,133冊
予約件数	3,556件	1,747件

3 行事の開催状況

開催日	行事名	場所	対象	参加人数
4月1日 ～4月30日	ひゃっか王からの挑戦状	佐野公民館 図書室	児童	49名
4月10日	カレン先生の英語でおはなし会	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	18名
4月21日	SDGsの絵本の読み聞かせ	イオンモー ル日根野	児童 一般	21名
4月23日 ～5月5日	“押し本のうろこ”で大きなこいの ぼりをつくろう	全館で受 付・展示	児童 一般	255枚
4月27日	廃材 de つくる！コロコロサーキ ット	中央図書館 視聴覚室	児童	21名
4月29日	日曜・祝日おはなし会	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	8名
5月8日	カレン先生の英語でおはなし会	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	16名
5月22日	おやこヨガ（なでなでヨーガ）	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	17名
5月22日	おやこヨガ（まねまねヨーガ）	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	10名
5月24日	Board Game Day	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	39名（全2回）
6月1日	いずみさの子ども未来応援フェス タによる人形劇&ミニ映画会	中央図書館	児童 一般	149名
6月1日	スマホで図書館を使いこなそう	中央図書館	児童 一般	4名（全2回）
6月9日	育ててみよう！ノギリクワガタ	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	61名（全2回）
6月12日	カレン先生の英語でおはなし会	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	26名
6月23日	日曜・祝日おはなし会	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	38名
6月25日 ～7月7日	七夕～短冊に願いをこめて～	全館で受 付・展示	児童 一般	359名

6月28日	初めてのゆる♡ヨガ	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	10名
6月30日	いずみさの図書館フェスタ in い こらも～る泉佐野	いこらも～ る泉佐野	児童 一般	貸出 (36名 160冊) プラレール (234名) えほんの広場 (137名) おはなし会 (85名) 電子図書館体験会 (6名)
7月2日 ～8月28日	夏休み！わくわくスタンプラリー	全館で受 付・展示	児童 一般	950枚配布
7月2日 ～8月28日	みてみて！うちのかわいいペット 写真展	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	37枚応募
7月10日	カレン先生のベビー・イングリッ シュ	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	23名
7月20日	こわ～いおはなし会	北部公民館 図書室	児童 一般	13名
7月20日	図書館を使った調べる学習コンク ールミニ講座	中央図書館 視聴覚室	児童	29名 (全2回)
7月21日	図書館を使った調べる学習コンク ールミニ講座	中央図書館 視聴覚室	児童	10名 (全3回)
7月28日	読書感想文を応援します！	佐野公民館 図書室	児童	9名
7月30日	読書感想文を応援します！	中央図書館 視聴覚室	児童	19名 (全2回)
8月1日 ～9月25日	ぬりえでわくわく！こんなところ に飛行機が！	中央図書館	児童	258名
8月3日	読書感想文を応援します！	日根野公民 館図書室	児童	3名
8月4日	イングリッシュ・クエスト (カレ ン先生)	長南公民館 図書室	児童 一般	23名
8月18日	Board Game Day	日根野公民 館図書室	児童 一般	18名

8月24日	夏の映画会	北部公民館 図書室	児童 一般	23名
8月25日	プラレールで遊ぼう！	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	132名
8月28日	おやこヨガ（なでなでヨーガ）	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	8名
8月28日	おやこヨガ（まねまねヨーガ）	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	15名
9月14日	「いずみさの電子図書館」体験 in イオンモール日根野	イオンモー ル日根野	児童 一般	11名
9月14日	SDGsワークショップ 古新聞を活 かそう！	イオンモー ル日根野	児童 一般	21名
9月16日	えほんのひろば	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	24名
9月21日	地球儀制作ワークショップ 世界最古の地球儀を作っちゃお う！	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	17名
9月25日	カレン先生のベビー・イングリッ シュ	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	23名
9月27日	初めてのゆる♡ヨガ	中央図書館 視聴覚室	一般	5名
10月1日 ～10月30日	地域ねこパネル展	中央図書館		
10月2日	出張おはなし会	佐野公民館 図書室	児童 一般	15名
10月4日	調べる学習コンクール一次審査会	中央図書館 視聴覚室		
10月9日	カレン先生のベビー・イングリッ シュ	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	34名
10月10日	調べる学習コンクール審査会	中央図書館 視聴覚室		
10月13日	育ててみよう！みんなの憧れニジ イロクワガタ	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	16名
10月20日	日曜・祝日おはなし会	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	29名

10月23日	おやこヨガ（なでなでヨーガ）	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	8名
10月23日	おやこヨガ（まねまねヨーガ）	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	10名
10月26日	オリジナルのしおりを作ろう！	北部公民館 図書室	児童 一般	33名
10月27日	ハロウィン工作 やじろべえを作ろう！	北部公民館 図書室	児童 一般	15名
10月27日	プラレールで遊ぼう！	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	299名
10月29日	ライブラリースタッフの Must read book	中央図書館	児童 一般	
11月1日 ～11月30日	読書週間	全館	児童 一般	各館でプレゼント企画
11月3日	調べる学習コンクール表彰式	中央図書館	児童 一般	73名
11月6日	出張おはなし会	長南公民館 図書室	児童 一般	3名
11月10日	日曜・祝日おはなし会	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	6名
11月13日	カレン先生のベビー・イングリッシュ	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	20名
11月16日	朗読会	中央図書館 視聴覚室	一般	45名
11月16日	泉佐野市読書活動推進月間 特別企画 市民講演会「この時代に本を読む意味」	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	904名
11月22日	初めてのゆる♡ヨガ	中央図書館 視聴覚室	一般	7名
11月23日	ボランティア・スキルアップ講座	中央図書館 視聴覚室	一般	11名

11月24日	いずみさの図書館フェスタ in イオンモール日根野	イオンモール日根野	児童一般	貸出(23名99冊) えほんの広場(180名) おはなし会(101名) 電子図書館体験会(6名) ワークショップ(41名) 移動図書館写真撮影(23名)
12月1日 ~12月25日	アドベントカレンダー~もうすぐ楽しいクリスマス~	全館	児童一般	各館で展示
12月1日	日曜・祝日おはなし会	中央図書館 視聴覚室	児童一般	5名
12月4日	出張おはなし会	北部公民館 図書室	児童	5名
12月7日	楽しくプログラミングを学ぼう!	中央図書館 視聴覚室	児童一般	18名(全2回)
12月8日	楽しくプログラミングを学ぼう!	中央図書館 視聴覚室	児童一般	25名(全2回)
12月11日	カレン先生のベビー・イングリッシュ	中央図書館 視聴覚室	児童一般	17名
12月15日	プラレールで遊ぼう!	中央図書館 視聴覚室	児童一般	154名
12月22日	紙コップでハンドベルをつくろう!	長南公民館 図書室	児童	19名
12月22日	「いずみさの電子図書館」体験会 in イオンモール日根野	イオンモール日根野	児童一般	22名
12月22日	クリスマスカード作りワークショップ	中央図書館 視聴覚室	児童一般	43名
12月24日 ~12月25日	各種団体向けリサイクル市	中央図書館 視聴覚室		15団体 585冊
1月5日 ~1月7日	本の福袋	中央図書館	児童一般	60袋

1月5日 ～1月7日	本の福袋	佐野公民館 図書室	児童 一般	22袋
1月5日 ～1月9日	本の福袋	長南公民館 図書室	児童 一般	14袋
1月5日 ～1月8日	本の福袋	日根野公民 館図書室	児童 一般	30袋
1月7日 ～1月15日	本の福袋	北部公民館 図書室	児童 一般	10袋
1月8日	カレン先生の英語でおはなし会	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	13名
1月26日	「いずみさの電子図書館」体験会 In イオンモール日根野	イオンモー ル日根野	児童 一般	18名
1月26日	オリジナルのしおりを作ろう！ In イオンモール日根野	イオンモー ル日根野	児童 一般	24名
2月5日	出張おはなし会	日根野公民 館図書室	児童 一般	21名
2月12日	カレン先生のベビー・イングリッ シュ	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	27名
2月15日	プラレールで遊ぼう！	北部公民館 図書室	児童 一般	167名
2月16日	「いずみさの電子図書館」体験会 in いこらも～る泉佐野	いこらも～ る泉佐野	児童 一般	21名
2月16日	オリジナルのしおりを作ろう！ in いこらも～る泉佐野	いこらも～ る泉佐野	児童 一般	29名
2月16日	作って遊ぼう！紙コップで UFO キ ャッチャー	日根野公民 館図書室	児童 一般	17名
2月23日	図書館バックヤードツアー（小学 生向け）	中央図書館	児童	8名
2月23日	図書館バックヤードツアー（中学 生以上向け）	中央図書館	一般	4名
3月1日	市民向けリサイクル市	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	200名
3月25日	大人の映画会	北部公民館 図書室	一般	31名
3月26日	カレン先生のベビー・イングリッ シュ	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	24名

3月28日	大人のゆる♡ヨガ	中央図書館 視聴覚室	一般	6名
3月29日	おはなし会コラボイベント	中央図書館 視聴覚室	児童 一般	32名
3月29日	春休み体験広場 ミニおはなし会	北部公民館 図書室	児童 一般	6名
毎月第2土曜日	午後のキネマ	中央図書館 視聴覚室	一般	延べ368名(全11回)
隔月第3土曜日(偶数月)	土曜子どもシアター	中央図書館 視聴覚室	児童	延べ178名(全6回)
毎月第1・3土曜日	おはなし会	中央図書館 視聴覚室	児童	延べ261名(全22回)

令和5年度以降、図書館の利用を控えていた市民が戻ってきたことや、「泉佐野市民の心と知識を豊かにする読書活動推進条例」制定後おこなってきた市内小中学校の図書室の整備や、図書館の利用推進のための活動の成果もあり、令和6年度の人口一人当たりの個人貸出冊数は、5.38冊で、令和5年度の4.16冊より増加となった。

予約・リクエストは、来館しなくてもインターネットでの資料検索・予約申し込みが可能なのに加えて令和2年12月より開始した予約本受取ロッカーの利用も好評で、令和5年10月市内ショッピングセンターのイオンモール日根野といこらも～る泉佐野に予約本受取ロッカーと返却ポストを設置したが、新たに令和6年10月にJR日根野駅構内にも予約本受取ロッカーと返却ポストを設置、現在4カ所の予約受取ロッカーの運用をおこなっており、年々予約件数が伸びている。

また、図書館に来館しなくてもパソコンやスマートフォンからインターネットを利用して電子図書を読む事が出来る電子図書館サービスを令和3年4月より開始した。このサービスは、24時間年中無休で利用可能で、ネット環境があるところならどこでも利用できるため活用している人からは便利だとの声をいただくが、利用したくても利用方法がわからない人がいること、電子図書館サービス自体を知らない人も多いことから、令和4年度は市役所1階ホールで「電子図書館体験会」を実施し、電子図書館サービスについて周知をおこなっていたが、令和5年度は市内ショッピングセンターのイオンモール日根野といこらも～る泉佐野で「電子図書館体験会」を実施し、令和6年度も引き続き2カ所のショッピングセンターで「電子図書館体験会」を実施し、令和6年度の利用実績は前年度の約2倍に増加した。

行事は、昨年同様、指定管理者が開催した新事業や、ボランティアグループの協力を得て、多くの催しを開催し、参加者の増加に努めた。11月には、読書活動推進月間にあわせてイベントを開催、図書館利用者に読書通帳やブックカバー、葉などを贈呈した

他、池上彰氏による市民講演会や図書館フェスタ in イオンモール日根野などを開催し、市民に対し図書館の利用促進を図った。

また、令和4年度より開催の「泉佐野市図書館を使った調べる学習コンクール」の第3回を開催。これは小学生と中学生が対象で、夏休みに学校図書室も含めた図書館の所蔵資料を使って自由に調査・研究した内容をまとめて応募いただき、その中から優秀作品を表彰、一部の作品を全国コンクールに推薦するもので、令和6年度は長南小学校と中央小学校において出前講座の開催や、7月下旬に中央図書館でミニ講座を実施するなどして調べる学習のまとめ方を指導し、出品者を増やすよう努めた。

行事参加者総数 令和6年度 7,019人
(令和5年度 6,903人)

・図書館ネットワークの充実

平成31年4月に日根野中学校校区内に日根野公民館図書室が開館し、近隣の多くの市民より利用があった。これにより市内5中学校区全てに図書館施設が設置されることになった。令和元年度の第三小学校に加えて、令和2年度から新たに第一小学校・第二小学校・中央小学校を移動図書館の巡回ステーションに追加し、既存のステーション長滝町会館を長南小学校、北中ちびっこ広場を北中小学校に変更した。この結果、公民館図書室が近くにある日根野小学校、長坂小学校を除く市内11の小学校に移動図書館が巡回することになった。また、令和2年の2学期より市内小中学校の児童・生徒全員に「泉佐野こども読書通帳」を配布し、100冊の読書記録を記入した児童・生徒には、表彰状を渡し、より読書に励んでもらえるよう取り組んだ。

令和6年4月より中央図書館内に学校図書館間や学校と市立図書館とのネットワーク強化を図ることを目的に学校図書館支援センターを開設。

中央図書館、移動図書館、公民館図書室を活用し市内全域において組織的にサービスを充実するとともに、市内各機関（学校図書館等）や国立国会図書館・大阪府立図書館・他図書館とのネットワーク環境の整備・相互協力体制の充実を図り、より効率的な情報提供に努めた。

○移動図書館運営事業 <評価> B

移動図書館「いちよう」号の巡回による図書館業務（市内30ステーション）

○図書館車両管理事業 <評価> B

移動図書館「いちよう」号及び連絡公用車の管理業務。

連絡車による公民館図書室連絡巡回及び、近隣図書館との相互協力貸出業務。

1 移動図書館実績

	令和6年度	令和5年度
巡回ステーション数	30ステーション	29ステーション
巡回日数	170日(年間)	165日(年間)
延べ巡回回数	458回	422回

2. 相互貸借実績

	令和6年度	令和5年度
他図書館への貸出	909冊	1,362冊
他図書館より借受	2,163冊	2,728冊

令和6年度より、あらたにイオンモール日根野駐車場でのルリビタキの巡回貸出を開始した。

中央図書館や公民館図書室の利用困難地域へのサービスである移動図書館については、天候の影響などで止むを得ず巡回を中止することがあり、年度ごとに巡回回数に変動がある。

令和6年度より、学校図書館支援センターが開設され、学校図書館への配本サービスについては、学校図書館支援センターが配送を行うほか、各学校司書の図書館来館での資料手配や、移動図書館の学校へ巡回時の利用などで学校図書館の円滑な利用がはかれたため、配本車サービス自体は廃止となった。他図書館への貸出実績は減少となった。

取組の効果

- ・市民から図書館の存在を広く認知されており、市民の幅広い情報ニーズに応えた。
- ・図書や視聴覚資料、インターネット等を活用し様々な情報を提供した。

	令和6年度	令和5年度
個人貸出冊数	487,390冊	379,138冊
予約件数	84,670件	77,229件

今後の課題

- ・全国平均以下に落ち込んだ人口当たりの貸出冊数を向上させる。

人口1人当たり貸出冊数の比較

	令和6年度	令和5年度
泉佐野市	5.38冊	4.16冊
大阪府下平均(図書館設置市町村のみ)	参考数値 5.52冊 (令和5年度)	
全国平均(図書館設置市町村のみ)	参考数値 4.84冊 (令和5年度)	

- ・図書館の利用増加に繋げるため、指定管理者と協議して、高度情報化社会に対応した資料

提供サービスや、気軽に資料を手にとって利用してもらえるような、資料の展示や書架づくりに努める。

- ・レファレンスサービスを充実させ、よりきめ細かな情報ニーズに応えていく。
- ・インターネットを活用した情報発信を拡充し、読書振興へとつなげる。
- ・「泉佐野こども読書通帳」以外にも、学校図書館との連携など子どもの読書環境の整備に努める。
- ・新型コロナの感染対策が緩和され、図書館に戻ってきた市民に安心して長時間くつろいで利用してもらえるような読書環境の整備に努める。
- ・小学校への移動図書館巡回貸出や中学生職業体験など、市内小中学校と連携を取りながら、子どもの読書活動推進に努める。
- ・令和3年11月に制定した「泉佐野市民の心と知識を豊かにする読書活動推進条例」の趣旨に沿って、市民の読書活動を支えるため泉佐野市の読書環境整備に努める。

【子育て・教育】

(5) 生涯学習・スポーツに関すること

【生涯スポーツの振興】

②生涯スポーツの振興（スポーツへの意識向上）

目 標

市民のスポーツへの意識を高めるため、事業の充実や各種スポーツ団体との連携、指導者の育成に努め、スポーツ振興に関する計画策定により、各種スポーツ組織の育成と活動支援を行い、自主的運営が出来るよう活動機会の充実を図る。（スポーツ推進課）

取組及び実績

・スポーツ振興事業の展開（スポーツへの意識向上や関係団体の育成と支援）と各種体育施設管理運営事業に取り組んだ。

○生涯スポーツ振興 <評価> B

生涯にわたるスポーツ活動を推進するため、各種目別のスポーツ競技大会などを開催した。（人数は延べ参加者数）

市民競技大会（全20種目）	令和6年度	20種目	3,558人
	（令和5年度	20種目	3,202人）
大阪府総合体育大会 地区大会	令和6年度	8種目	219人
	（令和5年度	9種目）	234人
中央大会	令和6年度	7種目	91人
	（令和5年度	7種目	92人）
市主催教室			
総合体育館・健康増進センター	令和6年度	5教室	625人
	（令和5年度	5教室	607人）

その他

昨年に引き続き行われた市民健康マラソン、スポーツフェスタ泉佐野及びKIX泉州国際マラソンの各実行委員会に参加及び開催を支援した。

泉佐野市スポーツ大使については、元バレーボール日本代表の大山加奈さんによるスポーツ交流授業を昨年に引き続き実施した。また令和5年度にスポーツ大使にご就任いただいた、本市出身でJリーグガンバ大阪所属GKである一森純選手の応援バスツアーを令和6年12月8日（日）に実施し、30名の市民がパナソニックスタジアム吹田にて一森選手を応援した。

また、昨年に引き続き大相撲「雷部屋」の3月（大阪）場所における合宿が本市土丸で行われた。令和7年3月1日（土）には、市民総合体育館において雷部屋の力士と市民との交流会を実施し市民約120名が参加した。参加者のうち約半数以上は子どもで、力士に関するクイズや、握力測定、インタビュー及び雷部屋力士対子どもの綱引きといったイベントを実施し、最後には写真撮影会も行い、

参加者全員に楽しんでいただいた。

スポーツフェスタ泉佐野	令和6年度	のべ2,	600人
	(令和5年度)	のべ2,	650人)
市民健康マラソン	令和6年度	258人	
	(令和5年度)	245人)	
KIX 泉州国際マラソン	令和6年度	フルマラソン	全出走者 1, 451人
		ハーフマラソン	全出走者 1, 040人
	(令和5年度)	フルマラソン	全出走者 1, 546人
		ハーフマラソン	全出走者 1, 024人)
スポーツ大使活動			
	令和6年度	上之郷小学校	スポーツ交流 69人
		末広小学校	委嘱式・スポーツ交流 380人
	令和5年度	中央小学校	スポーツ交流 185人

○スポーツ関係団体などへの支援 <評価> B

スポーツ団体の支援、指導者の育成、市民のスポーツへの関心を高める活動を行った。

団体、指導者育成への支援

体育協会	令和6年度	19団体加盟	(令和5年度 19団体加盟)
レクリエーション協会	令和6年度	3団体加盟	(令和5年度 3団体加盟)
スポーツ少年団	令和6年度	17団体加盟	(令和5年度 17団体加盟)
スポーツリーダー協議会	令和6年度	会員14人	(令和5年度 会員14人)
スポーツ推進委員協議会	令和6年度	委員26人	(令和5年度 委員26人)

市民のスポーツへの関心を高める活動

キッズスポーツ教室	令和6年度	989人	(令和5年度 939人)
小学生着衣水泳	令和6年度	41人	(令和5年度 21人)

○各種体育施設管理運営事業 <評価> B

スポーツ推進課が所管する既存のスポーツ施設の利用を促進した。

市民総合体育館	令和6年度	79,	320人
	(令和5年度)	83,	412人)
健康増進センター	令和6年度	123,	915人
	(令和5年度)	117,	857人)
テニスコート(長滝、新町)	令和6年度	23,	238人

	(令和5年度	22,289人)
市営プール(令和6年度14ヶ所)	令和6年度	9,548人
(令和5年度14ヶ所)	(令和5年度	9,699人)
グラウンド場	令和6年度	36,337人
(大池、住吉多目的広場)	(令和5年度	36,577人)

取組の効果

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け大きく落ち込んでいた各スポーツ施設の利用者数が、コロナ禍前には及ばないものの、利用者数が増加となった施設もあった。

また、各種スポーツイベント等についても再開し、大相撲「雷部屋」の3月(大阪)場所における合宿に伴う力士と市民との交流会や市柔道連盟75周年に伴うアスリート講演会(講演者:穴井隆将天理大学柔道部監督)の開催等により、市民のスポーツへの関心を高めることに寄与した。

今後の課題

少子高齢化で今後さらにスポーツ人口の減少が予想されることから、各種スポーツ団体と連携しながら、多様なスポーツイベントを広く周知して、スポーツ人口の増加とともに、市民の健康維持増進と体力の向上を図る。

- ・ 障害児者を対象とした市主催の教室やスポーツ推進委員協議会主催の子どもを対象とした教室の参加者数を増やすため、広報誌やホームページ以外に保護者等へのPR方法を検討・実施する。
- ・ 令和6年度に市民総合体育館大体育室のブラインド及びカーテンの更新や壁面の補修を行ったが、その他体育施設の老朽化が進んでいるため、利用者が安全・安心・快適に利用できるよう、計画的な点検や補修、改修を実施する。

【子育て・教育】

(5) 生涯学習・スポーツに関すること

【地域の社会教育活動への支援】

③組織運営の拡充

目 標

学校施設をスポーツや文化の活動の場として提供する。 （教育総務課）

取組及び実績

・地域社会との連携

○学校開放事業 <評価> B

学校教育活動に支障のない範囲において、市立小学校及び中学校の施設を社会教育、その他公共使用のために開放した。管理運営は各学校に設置する運営協議会が行った。

・実施学校数	小学校	13校、	中学校	5校
・学校施設の利用回数	令和6年度	6,771回		
	(令和5年度	6,418回)		
・利用者数	令和6年度	131,303人		
	(令和5年度	119,957人)		

取組の効果

- ・多くの地域住民が、年間を通じて学校体育施設を有効に活用できた。
- ・地域での積極的なスポーツ活動を支援することにより、市民スポーツの活性化や開かれた学校づくりにつながった。

今後の課題

- ・学校施設開放事業は地域住民が自主的な運営管理を行うものであり、円滑な運営を行うことができるよう支援し、地域の実情に沿って、効果が上がるよう取り組んでいく必要がある。

【子育て・教育】

(5) 生涯学習・スポーツに関すること

【青少年の健全育成】

④青少年の健全育成

目 標

市内の様々な青少年健全育成団体では、活発な自主的活動に加えて、地域を越えた交流事業を実施する一方、少子化の中、青少年を指導する人材育成および地域社会が一丸となって青少年を支える環境づくりを進める。(青少年課・学校教育課)

取組及び実績

・指導者の育成

市内の青少年健全育成団体の自主的活動を支援するとともに、地域と連携し、多様な青少年活動のリーダーとなる人材の育成に努めた。

○指導者・育成者等研修事業 <評価> B

多様な青少年活動に対応できる人材の育成のため、ジュニアリーダーの養成や指導者・育成者の研修を実施した。

・ジュニアリーダー養成講習会

令和6年度 開催日数5日 延べ参加者数 43名

[参加者内訳：受講生3名、ジュニアリーダー9名、ジュニアリーダークラブ 22名]

(令和5年度 開催日数5日 延べ参加者数 52名)

[参加者内訳：受講生7名、ジュニアリーダー7名、ジュニアリーダークラブ 21名]

・青少年指導者講習会等研修実施日数

令和6年度 実施日数2日、参加人数20名

令和5年度 実施日数2日、参加人数34名

・ワクワクふれあいハイキング

令和6年度 参加者数214名

令和5年度 参加者数251名

・自立心や仲間意識を育む

市内の青少年健全育成団体の自主的活動、そして大阪府立少年自然の家での活動を通じて、人と人の関わり方や自立心・自制心そして仲間意識を育むとともに、子どもたちの居場所づくりに向けた取り組み推進した。

○青少年育成事業 <評価> B

引き続き活動施設を利用し子どもたちの居場所の一つになるように、工夫して各種事業を実施した。

・稲倉青少年野外活動センターの利用について

令和6年度 ※土地を借用している民間事業者が、建設及び運営に至るまでを行う予定。

キャンプ場案を関係各所と協議中

令和5年度 ※土地を民間事業者に借用し、計画中のため

・非行防止・啓発

地域での安全パトロールや環境浄化を支援するとともに、情報を提供するなど市民への啓発も推進し、地域と連携して青少年の非行を未然に防止するよう努めた。

○成人式事業<評価> A

成人(二十歳)の日を迎える対象者に大人としての自覚と次代の担い手としての責任を促すとともに、立派な社会人として成長するよう式典を開催した。

令和6年度 対象者 1,075名、出席 705名

令和5年度 対象者 1,088名、出席 718名

○環境浄化・非行防止啓発事業 <評価> A

地域の方々と連携し、環境浄化活動や街頭啓発、安全パトロールなどを実施した。

・環境浄化活動実施日数 令和6年度 3日 参加者数 157人
(令和5年度 1日 参加者数 278人)

・非行防止等街頭啓発実施日数 令和6年度 1日
(令和5年度 1日)

・安全パトロール 令和6年度 延べ参加者数 93人
(令和5年度 延べ参加者数 149人)

取組の効果

・青少年の健全育成に資するための活動に供するべく、子どもの居場所づくりに継続して取り組んでいる。

今後の課題

- ・青少年を支える環境づくりには、既存の施設の活用はもとより、市全域として関係機関や地域の方々の協力が重要である。その一方、少子化が進行していく中で、青少年を指導する人材の育成や青少年を支える環境づくりへの支援が求められている。
- ・「地域の子どもは地域で育てる」という意識を、より多くの地域の方々が共有できるように効果的な取り組みが必要である。
- ・青少年指導員連絡協議会は、青少年の非行防止と健全育成を図ることを目的として、昭和

38年より各学校や各中学校区の青少年指導員会等と連携しながら人材育成や非行防止・啓発活動等に取り組んでいる。現在は、青少年指導員として167名を委嘱し、活動しているが、今後より一層活動を活発にしていくためにも、次代を担う人材の確保・育成が必要である。そのためには、青少年指導員の活動についてより多くの方に理解してもらうための広報等の取り組みや、人材育成のための研修や活動への参加を促す取り組みをより一層進めていくことが必要である。

- ・稲倉青少年野外活動センターは、平成26年度から5年間、指定管理者制度へ移行したが、平成31年4月より直営となっている。施設の周知を行いながら、利用者の増加に努め、引き続き利用促進に努めましたが、施設の老朽化等により利用者が減少しているため、令和4年度からは民間による運用となり、関係各所とキャンプ場再開として協議中である。
- ・ジュニアリーダー養成講習会は、青少年のよき理解者、よき指導者、さらには将来のよき社会人を育成する事業で、昭和38年より始められた歴史のある事業である。次の世代へと引き継いでいく事業であるが、参加者が平均3～5人程度であり低迷している。平成25年度から対象を中学1年生だけでなく、2年生も対象とした。また、募集チラシを配布した。今後はさらに参加しやすい環境づくりに努め、事業の重要性・意義を啓発するとともに、中学校及び地域との連携、そしてジュニアリーダーを卒業したOB・OGにも協力を求めるなどの取り組みが引き続き必要である。
- ・成人式事業は、令和4年度より従来の開催（午前1回）となり、例年対象者の成人による参加率が約7割前であるが、二十歳の時点で市内在住ではなくとも参加できる環境作り等、更なる周知などで参加率増につなげたい。

4 学識経験者の評価

点検及び評価を行うにあたっては、学識経験者として神於 正博 氏と丹治 弘 氏に指導及び助言をいただいた。

■総合評価

少子高齢化、グローバル化、ICT化等、社会の変化に伴い教育の在り方も変化し、求められるものも多様化してきている。教育行政は、市民や教育現場の現状やニーズを的確に把握し、必要な施策を講じなければならない。

幼保一体化による認定こども園の円滑な運営や、高齢社会における健康増進や生涯学習の推進、訪日外国人に対する多文化共生の意識の醸成、教育現場でのICTの活用及び児童・生徒のネットリテラシーの育成等、国や府が行う法や制度の改正に対しは、広く市民に周知・啓発するとともに、施策に反映すること等が挙げられる。

泉佐野市教育委員会が策定する新しい『泉佐野市教育振興基本計画』（令和8年3月）に基づく目標値が計画どおりに達成できるよう努力されたい。

今回の報告書及びヒアリングでは、昨年度同様、国や府のデータや前年度との比較を示すことで、わかりやすいものとなっている。長期にわたり安定して実施されている事業であっても、状況やニーズの変化を注視し、見直しを検討することで、常に問題意識を持って積極的に工夫・改善することを今後も引き続き実践していただきたい。一方で、継続している課題については、より具体的な改善策を示されたい。

以下に、今回の点検及び評価において特に議論された内容について、項目別に提示する。

【観光に関すること】

〈評価した点〉

- ◎史跡等保存事業では、日本遺産推進協議会へ参画し、認定記念フォーラムやシンポジウムの開催等、普及啓発関連事業に取り組んでいる。また、ARアプリやYouTube、パネルディスカッション等を活用しながら、史跡に関する普及啓発及び文化財に興味を持つ地域人材の育成に努めている。
- ◎日本遺産「日根荘」・「北前船」・「葛城修験」推進事業により、国の認定を受けた3つの日本遺産の活用、発信等を進めている。
- ◎「いずみさの検定」では、10歳以下の子どもも受検できるよう柔軟に取り組み、泉佐野市の積極的なPRを行っている。
- ◎泉佐野市史編纂事業で収集した史料を日本遺産のPRや特別展・企画展で活用した。また、大阪浮世絵美術館とコラボし「葛飾北斎浮世絵 富嶽三十六景を愉しむ」を開催し好評を博した。

《課題》

- ◎各小学校においては、「歴史館いずみさの」の見学、出前授業を位置付け、その活用を図られたい。
- ◎文化財の保存及び維持管理等について、地域や一般住民をはじめ文化財愛護推進委員の更なる連携協力を図る必要がある。
- ◎文化財理解の拡大及び文化財施設等の実地見学等について、「出前授業」や「出張講演」等を通じて小中学校により積極的に働きかけを行い、市内に存する文化財に関心を持つ児童生徒の裾野を拡げるとともに、歴史を使った町づくりの推進を期待する。

【国際化に関すること】

《評価した点》

- ◎新型コロナウイルス感染症拡大により中止されていた国際交流事業が再開された。

《課題》

- ◎国際情勢を考慮し、継続して実施してきた交流事業と新たな交流事業の検討が望まれる。
- ◎デジタル技術を活用する、新しい形態の国際交流も推進していただきたい。

【子ども・子育てに関すること】

《評価した点》

- ◎留守家庭児童会の充実について、待機児童を出さずに放課後の児童健全育成に努めている。

《課題》

- ◎民間の大規模開発等による対象児童数の増加については待機児童を出さないよう対応されたい

【学校教育に関すること】

《評価した点》

- ◎市費講師の配置により全小学校での35人学級が実現し、学級経営や学力向上に成果を上げている。
- ◎トイレの洋式化改修や学校図書室の改修、電算システムの導入を行い、教育環境の充実に努めている。
- ◎学校教育課主催の教職員研修の内容が具体的に示され、年度の課題が明確になって

いる。

- ◎家庭の教育機能総合支援については、家庭も含めた児童生徒の支援に努めている。
- ◎各小中学校の「いじめ防止委員会」「生徒指導委員会」「不登校対策委員会」「ケース会議」等にSG・SSWが参加できる体制づくりを推進し、いじめの認知件数が増加していることから、子どもたちを組織的に見守る体制づくりが進んでいる。
- ◎小中学校給食の実施にあたり、材料における地産地消の観点や児童生徒からの応募献立等を継続することにより給食に関心を持ち、残菜率・食品ロスの改善に向けた取り組みを進めている。SDGsの観点から有機農産物を使った給食の提供も開始した。
- ◎夜間中学を開設し、教育の機会を保障することができている。

《課題》

- ◎「いじめ防止」に関して、泉佐野市および同教育委員会が策定した「泉佐野市いじめの防止等に関する条例」（令和2年1月策定）、「泉佐野市いじめ防止基本方針」（令和2年1月改定）に示された施策の実現に向けて努力されたい。
- ◎小中学校とも、食物アレルギーを持つ児童生徒について配慮がされているが、大阪府教育委員会の「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」（平成29年2月策定）を活用し、事故防止に努められたい。
- ◎学校における食育推進の中心的な役割を担っている栄養教諭の役割は非常に重要である。このことの意義を踏まえ、適切な配置を大阪府教育委員会、文部科学省に働きかけていただきたい。
- ◎児童・生徒のスマホ利用について、道徳の教科書等を活用し、関係機関とも連携しながら、ネットリテラシーを育成し、適切な利用を図られたい。
- ◎小中一貫教育を、校区の実態に応じて、とりくみを進めていただきたい。

【生涯学習・スポーツに関すること】

《評価した点》

- ◎教育団体・文化団体の活動を支援することにより、市民の文化への関心を高め、活動の充実を図っている。
- ◎従来から行われている識字学級に加えて、日本語・漢字などの学習を希望する外国人も受け入れ、事業推進に努め、新たな課題に応えようとしている。
- ◎図書館運営事業では、図書館の利用促進に資するため、貸出図書の返却用ポストや予約図書受取用ロッカーの設置、巡回ステーションの追加、『泉佐野こども読書通帳』の配布、電子図書館サービスのさらなる活用等、市民目線に立った新しい市民サービスの取組を進めている。
- ◎青少年の健全育成において、関係団体との連携で、安定した事業が行われている。

《課題》

- ◎生涯学習センターや各公民館等、社会教育施設への社会教育主事等専門職の配置に関して、検討していただきたい。
- ◎人口一人当たりの貸出冊数を、目標である府下平均に近づけるためには、新刊書購入が必要であるとする。引き続き予算の増額に努められたい。
- ◎ジュニアリーダー養成講習会の受講希望者の少ないことが、例年課題となっているが、ジュニアリーダーとして活動できる環境づくりが求められる。

最後に、本報告書に示したように、教育委員会の事業内容は多岐にわたり、それぞれの施策におけるPDCAサイクルの実践には、多くの時間と労力が必要となるが、それらに真摯に対応している教育委員会事務局の姿勢がうかがわれる。しかし、一方では「働き方改革」が提唱されており、現状のスタッフですべての事業を行うにも限界であり、市民サービスの低下につながりかねないので、事務局の増員を要望しておきたい。